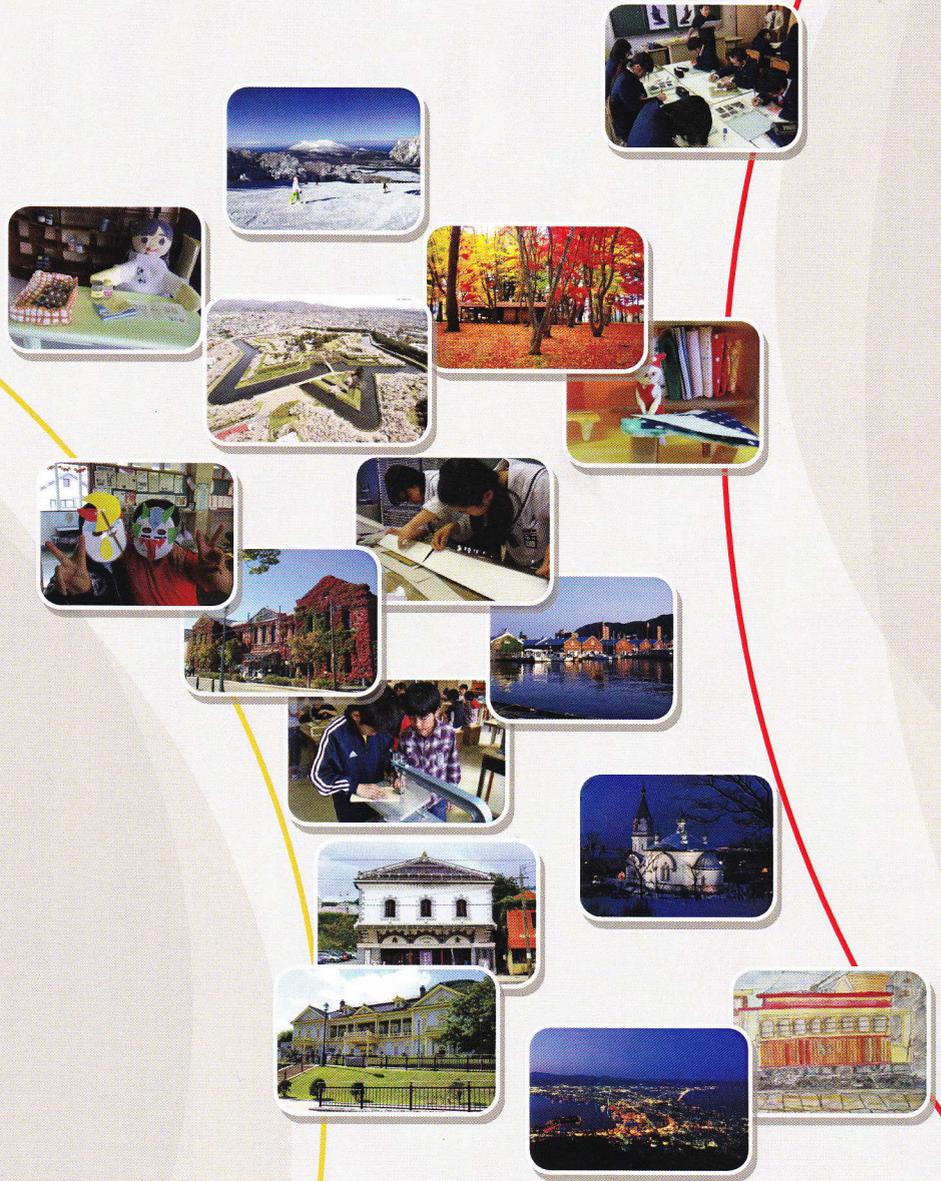




第65回 全道造形教育研究大会 函館・渡島大会



夢・つくる・人

～未来はぐくむ造形教育～

2015.7.29 函館市立弥生小学校

主催: 北海道造形教育連盟 函館市美術教育研究会 渡島美術教育研究会
主管: 第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会実行委員会
後援: 北海道教育委員会 函館市教育委員会 函館市幼稚園・こども園協会

第65回 全道造形教育研究大会

函館・渡島大会

研究主題

「夢・つくる・人 ～ 未来はぐくむ造形教育」



「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育」ということで中央に3人の人を配置しました。

中央は、夢をもった子どもたち、両側は、それを支える函館・渡島の先生方と保護者の方々をイメージし、第65回の大会ということで“65”を背景としました。未来に向かって進んでいく造形を大切にして学んでいきたいと考えています。

◇大会シンボルマーク制作 北斗市立上磯中学校2年 田中 真希 さん

2015年、夢つくる北のクリエイターの「函館・渡島」の子どもたちとともに、造形教育を見つめていきたいと願っています。

目 次

祝 辞	1
大会 日程	5
開・閉会式次第	6
記念講演	7
研究概要 北海道造形教育連盟研究主題	9
函館大会研究主題	11
授業者・提言者・司会者・助言者・記録者一覧	15
函館市立弥生小学校平面図	16
公開授業	18
提 言	32
全道造形教育ネットワーク	62
北海道造形教育連盟規約	76
全道造形教育研究大会のあゆみ	77
平成27年度北海道造形教育連盟名簿	79
函館・渡島大会役員一覧	83



ご挨拶

北海道造形教育連盟

会長 三井 哲

第65回全道造形教育研究大会が「夢・つくる・人 ～未来はぐくむ造形教育～」をテーマに、新幹線の開通を控え歴史と未来が繋がる街函館において開催されますことをとてもうれしく思います。あわせて、この大会の開催のために研究を深めるとともに綿密な準備を進めていただいた函館市美術教育研究会と渡島美術教育研究会の皆様にも、心より感謝申し上げます。

平成27年度は、現行の小学校学習指導要領の移行措置が実施されてから5年が過ぎ、マラソンでいえば折り返し地点を通過したところです。平成22年の函館大会は、「感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」を研究主題に新学習指導要領が示す授業づくりを展望するという大会でもありました。私たちは、函館の地でこれまでの5年間の図工・美術教育の実践を振り返ると共に、これからの5年間を切り拓く重要な節目にいます。小学校では、今年度より改訂された教科書が使われ、中学校も来年度より新たな教科書が使われます。改訂された教科書では、これまでの実践を踏まえ、新たな題材や教材が数多く示されています。そこで、改訂された内容を捉え、率先して実践し、授業の改善に努めることが私達の役割といえます。

また、昨年11月には下村文部科学大臣が「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」(新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方)を諮問され、主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブラーニング」)等が注目されています。そこで、これからは「何を教えるか」という知識や技能の改善ばかりでなく、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが図工・美術の授業でも重要な課題になることと思います。例えば、子どもたちが対話を通して新しい発想や豊かな表現を生み出す姿をイメージしながら授業デザインに取り組むことにより、実践者である私たちにパラダイムシフトが訪れるかもしれません。

このような時期に、歴史と文化が受け継がれてきた函館で、子どもたちを真ん中において「未来はぐくむ造形教育」について考え、語り合い、その成果を全道に力強く発信し、子どもたちの生き生きと学ぶ姿が全道に広がる実り多い大会になることを期待してご挨拶といたします。



ご挨拶

第65回全道造形教育研究大会 函館・渡島大会実行委員長
函館市美術教育研究会会長
土谷 敬

本日ここに第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会を「舶来文化の上陸地」,「歴史とロマンの街」函館市を会場として,全国各地から造形教育に情熱を傾けておられる先生方をお迎えし,開催することが出来ますことを大会運営者として心から嬉しく思います。

さて,前回大会を「創造!ときめき!実感!~感性と知性の出会い 心うるおす造形活動」のテーマの下で開催してから5年が経過いたしました。折しもこの間は,現行の学習指導要領が全面実施されてからの歩みとも言えます。図画工作や美術の授業が単なる知識と技術を教えることや作品づくりの指導にとどまるものではないことは,誰もが承知のところと考えます。確かな資質,能力を育成する視点を重視した指導の充実のため,改めて図画工作,美術科の改善の基本方針に立ち返ってみる必要があります。

とりわけ,「感性や想像力を働かせながらよさや美しさを感じ取り,思考・判断し,表現する造形的な創造活動の基礎的な能力を育成すること」,「生活の中の造形や美術の働き,美術文化などについての関心や理解を深め,豊かな情操を養うこと」,「表現や鑑賞の活動に共通して働く,形や色彩,材料などの性質や感情を理解したり,対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力を育成すること」等の趣旨の理解を図る段階から,それらを踏まえた授業実践を深化させる時期に入っています。

また,次期学習指導要領の改訂における道徳の教科化や小学校英語教育の充実,アクティブ・ラーニングの導入などとの関連も視野に入れていく必要があります。図画工作や美術が本来的に担っている道徳性の基盤となる豊かな情操を育むことや我が国及び諸外国の文化の理解を図ること,さらには造形的な創造活動そのものが能動的で問題解決的な学習であることを充分踏まえた,指導の充実を図っていくことが求められます。そのためにも,私たち美術教師が子どもの学びを基軸とした授業の在り方,つまりは目標や題材,内容,方法,評価等について継続的に研究を行い,仲間との実践交流を重ねていく中で答えを探し続けることが必要になります。

本大会に向けて,北海道造形教育連盟の研究主題を受け「夢・つくる・人~未来はぐくむ造形教育~」のテーマの下,渡島美術教育研究会との研究交流を図りながら組織的,計画的に造形教育の在り方について究明すべく授業研究や実技研修,講演等をとおして研究・研鑽を深めてまいりました。本大会においてご参集の皆様には,北の造形教育クリエーターとして共に未来を担う子どもたちを育てる視点で公開保育・授業,実践発表をもとに協議,交流を図り,実りある研究大会につくり上げて頂くことを切に願うところであります。

〇終わりになりますが,本大会の開催にあたり,ご後援頂きました北海道教育庁渡島教育局,函館市教育委員会,函館市幼稚園・子ども園協会をはじめ,ご講演,ご助言を賜ります皆様に感謝を申し上げますとともに,各般にわたりご支援,ご協力頂きました関係各位に心から御礼申し上げます,大会開催にあたってのご挨拶といたします。



第65回全道造形教育研究大会 函館・渡島大会を祝して

北海道教育庁渡島教育局長
辻 俊行

歴史と文化が薫る国際色豊かなここ函館市において、第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会が、全道各地から多数の先生方をお迎えし、盛大に開催されますことに心からお祝いを申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、長年にわたり、全道各地において研究大会を開催し、組織的・計画的に実践研究を積み重ねられ、授業公開や研究協議を通して実践の交流を図るなど、本道での造形教育の充実・発展に多大な貢献をいただいていることに、深く感謝申し上げます。

さて、我が国では、教育基本法に教育の目標のひとつとして「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」が示されており、学校教育では、教育活動全体を通して、美しいものや優れたものに接して感動する情感豊かな心である情操を育むことが求められております。とりわけ、幼稚園では表現領域のねらいに「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育むこと」、小・中学校では図画工作科・美術科の目標に「豊かな情操を養うこと」が示されており、子どもの発達の段階にに応じて、美しいものや心を動かすものに触れイメージを豊かにしたり、作りだす喜びを味わわせたりするなどして豊かな情操を養うことができるよう指導することが重要です。

このため、各学校においては、自らの感性を働かせ、造形的な創造活動の基礎的な能力を発揮し表現や鑑賞の活動の指導を工夫するとともに、子どもたちが表現や鑑賞の活動を通して生活や社会に主体的にかかわり、伝統を継承し、文化や芸術を創造しようとする心が育まれる造形教育の充実に努めることが大切です。

このような中、本研究大会が「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育～」を大会テーマ・研究主題に掲げ、幼稚園、小・中学校での公開授業や研究協議を通して、子どもたちの夢や思いを大切にし、北海道の四季のよさや歴史などとのかかわりを大切にした造形教育の在り方について研究を深められますことは、誠に意義深く、多くの成果が得られるものと心強く感じているところであります。

御参会の皆様には、本大会で示された先進的な取組を全道の各地域で広め、各学校での日常の授業実践に活用されますことを御期待申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力いただいた関係者の皆様方に心から敬意を表しますとともに、貴教育連盟のますますの御発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



「未来はぐくむ造形教育」の示唆に富む 研究大会となることを願って

渡島美術教育研究会会長
船橋 恭二

渡島美術教育研究会では、「感性と知性の出会い 心うるおす造形教育を求めて」をテーマに日常実践に取り組んできました。図工・美術の目標は、「豊かな情操を養う」です。そのために、表現及び鑑賞の活動をする。ここで最も大切なことは、その過程において「感性」を働かせながらの造形活動であること、造形活動の喜びを味わうことが不可欠です。「美しい」「楽しい」「すばらしい」の感情は、教えられて身に付くものでないことは、ご承知の通りです。「感性」は、個人個人の中に育っていくものです。そして、プラスの感情が伴うと豊かになっていきます。「感性」を働かせるために必要なものは「知」です。題材との出会い、造形活動の過程で、その子なりの気付き（理解）が生れると「感動」へつながります。昨年度の授業研究会では、「実の空間と虚の空間」に着目させた授業を公開していただきました。（題材名「手で感情を表現しよう！」（粘土で立体表現を楽しもう 中学校1年生）「虚の空間」は、日常意識のない空間であって、生徒にとっても初めての意識（知）です。導入では、実物の石膏像（実の空間）と石膏像の雌型（虚の空間）を実際に提示し、雌型に光を当てて浮かび上がる顔を見て、歓声を上げる生徒もいました。「虚の空間」を「感情」を表すものとして、試行錯誤を繰り返しながら作品づくりに取り組む姿が印象的でした。

さて、本大会のテーマは「夢・つくる・人 ～未来はぐくむ造形教育～」です。感性を働かせる「知」を工夫し、「子どもの気持ち」「学びの気持ち」「つながる気持ち」を大切に授業づくりに取り組んでいます。本テーマを具現化するためのキーワードは「連続性」だと考えています。子どもたちが自らの「思い」「造形活動での気付き」「新たな表現」を連続して追求する姿が、全道各地からご参集下さった皆様の心に残る大会となることを願っております。

大会日程



第65回全道造形教育研究大会 函館・渡島大会

■北海道造形教育連盟研究主題

“わたしを創る”～自立と共生の造形教育をめざして～

■大会テーマ・研究主題

「夢・つくる・人 ～未来はぐくむ造形教育～」

■日 程

7月29日（水）

8:30	9:00	9:50	10:15	11:00	12:30	13:30	16:00	18:00
受付	公開授業Ⅰ (幼・中)	移動	開会式 全体会 概要説明	講演 村上尚徳氏 (環太平洋大学 次世代教育学部教授)	昼食	分科会 研究協議	移動	全道地区交流 ・閉会式 (五島軒本店)
	夢ツリープロジェクト 公開授業Ⅱ (小)							
	9:15	10:00						

■講演 『感性や創造性をはぐくむ造形教育』

講師 環太平洋大学次世代教育学部 教授
村上尚徳氏

■主催 北海道造形教育連盟 函館市美術教育研究会 渡島美術教育研究会

■主管 第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会実行委員会

■後援 北海道教育委員会 函館市教育委員会
函館市幼稚園・こども園協会

■会期 平成27年7月29日（水）

■会場 函館市立弥生小学校
五島軒本店（全道地区交流・閉会式）

開 会 式

	司会	函館・渡島大会副委員長	仲井 靖典
1. 開会のことば		函館・渡島大会副実行委員長	花岡 康成
2. 挨拶		北海道造形教育連盟会長	三井 哲
3. 祝 辞		北海道教育庁渡島教育局長	辻 俊行 様
		函館市教育委員会教育長	山本 真也 様
4. 来賓紹介		函館・渡島大会副実行委員長	西館 純
5. 研究概要説明		北海道造形教育連盟研究部長	湯浅 大吾
		函館・渡島大会研究部長	佐々木善憲
6. 閉式のことば		函館・渡島大会副実行委員長	花岡 康成

閉 会 式

	司会	函館・渡島大会副実行委員長	仲井 靖典
1. 開式のことば		函館・渡島大会副実行委員長	船橋 恭二
2. 挨拶		北海道造形教育連盟会長	三井 哲
		函館・渡島大会実行委員長	土谷 敬
3. 連盟旗引継		函館 → 札幌	
4. 閉会のことば		函館・渡島大会副実行委員長	花岡 康成

記念講演

左 会 関

◇講師
村上尚徳氏



◇演題
『感性や創造性を
はぐくむ造形教育』

造形、図画工作、美術教育では、感性や創造性をはぐくむことが重視されています。しかし、単に描いたりつくったり、鑑賞したりするだけで感性や創造性が豊かに育つでしょうか。感性や創造性をはぐくむためには、発達の段階に応じて体全体の感覚を働かせたり、視点をもって対象を捉え感じ取ったり考えたりすることが必要です。そのためには、造形体験をする中で言語によって気付いたり、互いの考えを交流したりすることも重要です。感性、創造性、言語活動、〔共通事項〕をキーワードに、子どもたちの未来をはぐくむ造形教育について考えてみましょう。

左 会 関

プロフィール

村上 尚徳 (むらかみ ひさのり) 昭和37年5月生

岡山市公立中学校美術科教諭，岡山県教育庁指導課指導主事，文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官（中学校美術，高等学校美術・工芸担当）を経て，平成23年度より環太平洋大学次世代教育学部教授。平成10年小学校学習指導要領図画工作作成協力者，平成20年中学校学習指導要領美術及び高等学校学習指導要領芸術（美術，工芸）文科省作成担当者

第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会の開催おめでとうございます。

私にとって函館の地で開催される全道造形教育研究大会には、特別な思いがあります。

一つ目は全く個人的なことではありませんが、教員になって初めて参加した全道造形教育研究大会が、第42回全道造形教育研究大会函館大会でした。会場校がたくさんの先生方であふれ返っている光景に、未だ北海道造形教育連盟の一員ではなかった私は、「こういう世界もあるんだ。」と大変驚いたことを覚えています。今の私があるのも、その経験が一つの原体験となっています。

二つ目は、第60回全道造形教育研究大会函館・渡島大会です。この大会には、当時の文部科学省教科調査官の奥村高明先生と村上尚徳先生が参加されました。一県大会に両氏が揃うことに、凄いことだと思いました。さらに、当時の全国造形教育連盟委員長の永関和雄先生と日本美術教育連盟理事長の岩崎由紀夫先生が参加されました。翌年に全国造形教育連盟と日本美術教育連盟の共同開催による、全国図画工作・美術教育研究大会北海道大会 in 札幌が開催されたことを考えると、日本の造形教育の歴史的に見ても大変意義のある大会となりました。

また、こんなことも思い出です。この第60回全道造形教育研究大会函館・渡島大会に向けて授業者と提言者が集められた会議に、北海道の研究主題の説明を依頼され参加した時のことです。会議の後、函館市美術教育研究会の新年会があり、それにも参加させていただきました。その会に参加して驚いたのは、OBの先生方の数の多さでした。会の中でOBの方が、「他のことは自分たちがやる。大会づくりに専念しなさい。」とエールを送っていたのが印象的でした。函館の造形教育は熱い思いをもったたくさんの人々に支えられ、脈々と受け継がれているのだと実感しました。

“わたし”を創る

～自立と共生の造形教育をめざして～

この北海道造形教育連盟研究主題で全道造形教育研究大会を開催するのも、今回で7回目になります。そして、次年度の札幌大会は、新しい研究主題の下開催される予定です。つまり、第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会は、現研究主題で開催される最後の大会となります。今大会の成果と課題が、現研究主題の総括となり、また、新しい研究主題設定の端緒ともなってきます。ぜひ、分科会研究協議の中では、授業や提言に対する良し悪しというレベルではなく、子どもの姿が語ってください。授業者のこの手立てが子どもの資質能力を発揮させていたとか、こういう手だてをとるとこういう資質能力が育つのではないかなど、授業改善の視点で協議が進むことを期待しています。これは、今大会の研究内容に設定されている

造形教育を見つめなおす5つの視座

の1つ目の中にある

北海道はひとつの地域、チームとして、
造形教育をとらえよう

にもつながります。

今大会の会場にいる皆さんが、「北海道の造形教育力をあげるのだ」「北海道の先生方の授業力をあげるのだ」という視点をもって参加されるとき、第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会は、本当の意味で成功を収めることができるのだと思います。

北海道造形教育連盟の研究

"わたしを創る" ～自立と共生の造形教育をめざして～

“わたしを
創る”
とは？

造形活動を通して自分で意味を創り出したり美意識を広げたりすることが自分を豊かにし、新しい自分に気付くことにつながる＝**自己の更新**

⇒ 自己創造感

4 研究内容 1

めざす「自立した造形活動」とは

感性を働かせ自ら意味を創る

学びの中で感性を働かせながら生み出したものが自分にとっての意味であり、自分で意味を創り出す学びであると考えます。その自己実現に向かう意志を“わたし”ととらえ、“わたし”が生き生きと輝く学びを「自立した学び」と位置付けます。

子ども理解をより深める造形教育

一人一人の感じ方や表し方の背景を知ることが、より子ども理解を確かなものにつながりやすくなります。造形活動を通して子どもは“わたし”を創り、造形活動を通して教師は子ども理解を深める。その関係が、造形教育における望ましい授業像と考えます。

5 研究内容 2

めざす「造形活動における共生の姿」とは

自己理解から他者理解へ

“わたし”は、「自立した学びの空間と時間を共有する仲間からの価値付けによる、あたたかい学びの中で創られていくと考えます。このあたたかい学びを、一人一人の「自立した学びが響き合う「共生」の学びと位置付けます。そして、学校のみではなく「地域・社会」が自立をうながしたり、“わたし”を価値付けたり、また、「地域・社会」に向かっても創造性を発揮し自己実現していくことができると考えるのです。

子どもの「あいだ」を見る

“わたし”と“わたし”のあいだで価値へと広がっていく共生の学びをよりよいものにしていくために、教師は子どもたちの「あいだ」を見取る目を養う必要があると考えます。

第65回全道造形教育研究大会 函館・渡島大会 研究概要

同大会実行委員会 研究部長 佐々木 善憲

I はじめに

昨今の世界は、人々をとりまく自然環境や、歴史的、民族的、地域的な社会情勢の変化、ITの進歩とともに、めまぐるしく情報が行き交うメディア社会へと変貌し、人々のコミュニケーション手段もSNSなどの形態へと移り変わるなど、その余波は確実に日本にも押し寄せている。

そんな中、全国の初等中等教育の現場では、近年のPISA調査や全国学力調査などの結果を受けて、「生きる力」の理念を継承し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、それらを習得・活用・探究する授業づくりの充実による確かな学力の育成を目指して、様々な方策が実施されている。

その結果、一般的には、目に見える形での成果が求められ、テスト等の得点アップが学力向上の成果としてとらえられる状況があると言えよう。しかしながら、図画工作・美術教育における確かな学力とは、数値の向上のみを意味するものではないことは、周知のとおりである。

すなわち、「目に見える児童生徒の造形的な創造活動を通して、基礎的な能力を高めていくことだけでなく、目に見えない思いや心の動きなどに目を向けて、人間にとって大切な情操をはぐくんでいくこと」が、図画工作・美術における重要な確かな学力であるといえよう。

今大会では、未来に生きる子どもたちが、このような確かな学力を身につけ、人間性をはぐくんでいくために、これまでの「感性」や「知性」を有機的に関連づけた研究実践をふまえて、研究主題「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育～」を設定した。

「夢」「つくる」「人」というキーワードを主軸として、子どもたちが自ら創造し、将来に向けて、自分や心をつくっていくことを実感できる図画工作・美術を実践していくことで、一人一人の人間性を磨き、生涯にわたって必要とされる豊かな情操を培っていきたいと考えた。子どもたちの生涯への架け橋となるような研究実践に取り組むとともに、全道各地からの素晴らしい実践を紹介できる研究大会にしたいと考えている。

II 研究主題「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育～」について

1 造形教育を考える5つの視座

函館・渡島大会をむかえるにあたり、私たちは、造形教育を考える5つの視座を設定した。

(1) 「私たち、北海道のクリエイター」としての造形教育

- ・北海道をひとつの地域、チームとしての造形教育を考えよう。
- ・北海道的な特色ある造形活動（四季 地理 歴史など）の実践・交流を行おう。

(2) 夢つくる「北の2つのクリエイター」としての造形教育

「夢つくる人（子ども）」～ 自分の夢をたずさえ、将来へはばたく人

授業 指導 支援

確かな学力・情操を育む造形教育

「夢つくる人（教師）」～ 子どもたちの夢を広げ、将来をはぐくむ人

(3) 「夢・思い」を「とらえる・みつめあう・つなぐ・つむぐ・育む・実現する…」造形教育

(4) 思考と活動の上に成り立つ造形教育

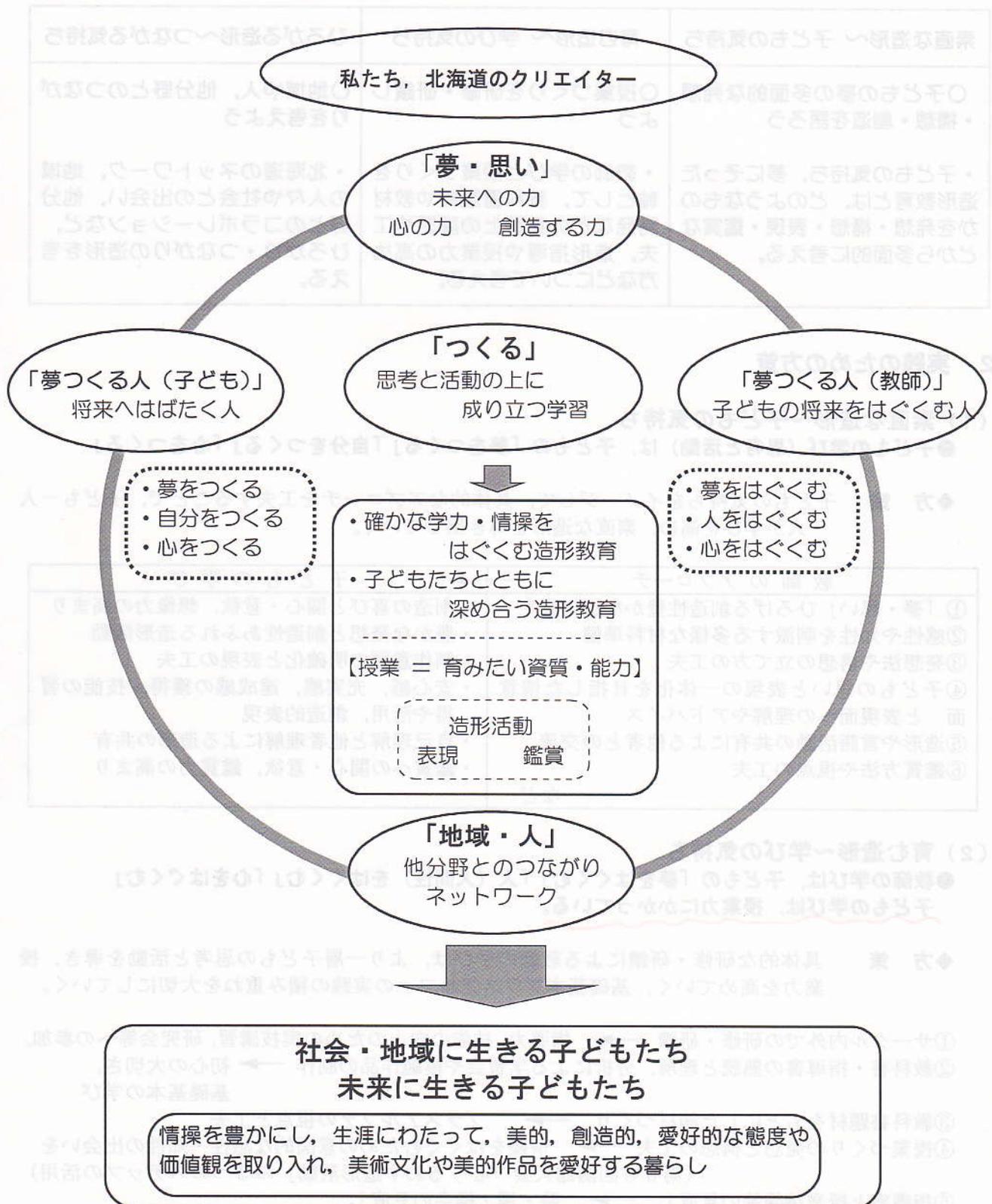
- ・想像する力 構想する力 創造する力 表現する力 鑑賞する力 感性・個性などをはぐくむ。

(5) 社会・地域に生きる、未来に生きる子どもたち、子どもたちとともに深め合う造形教育

2 大会テーマ・研究主題／構造図

北海道造形教育連盟研究主題 “わたしを創る” ～自立と共生の造形教育をめざして～

函館・渡島大会研究主題 **「夢・つくる・人 ～未来はくくむ造形教育～」**



Ⅲ 研究内容

1 研究実践の3つのポイント

3つのポイントを設定することにより、具体的な方策を確認し、研究実践に取り組んできた。今後も、以下の方策を継続して実践しながら、研究主題に迫っていこうと考えている。

素直な造形～子どもの気持ち	育む造形～学びの気持ち	ひろがる造形～つながる気持ち
<p>○子どもの夢の多面的な発想・構想・創造を語ろう</p> <p>・子どもの気持ち、夢にそった造形教育とは、どのようなものかを発想・構想・表現・鑑賞などから多面的に考える。</p>	<p>○授業づくりを研修・研鑽しよう</p> <p>・教師の学びと授業づくりを軸として、教科書題材や教材開発などの実践上の課題や工夫、造形指導や授業力の高め方などについて考える。</p>	<p>○地域や人、他分野とのつながりを考えよう</p> <p>・北海道のネットワーク、地域の人々や社会との出会い、他分野とのコラボレーションなど、ひろがり・つながりの造形を考える。</p>

2 実践のための方策

(1) 素直な造形～子どもの気持ち

●子どもの学び（思考と活動）は、子どもの「夢をつくる」「自分をつくる」「心をつくる」

◆方策 子どもの気持ちをイメージして、具体的なアプローチを工夫することで、子ども一人一人が学びを高め、素直な造形を導き出していく。

教師のアプローチ	子どもの学び
<p>①「夢・思い」ひろげる創造性豊かな題材設定</p> <p>②感性や知性を刺激する多様な材料準備</p> <p>③発想法や構想の立て方の工夫</p> <p>④子どもの思いと表現の一体化を目指した情意面と表現面への理解やアドバイス</p> <p>⑤造形や言語活動の共有による他者との交流</p> <p>⑥鑑賞方法や視点の工夫</p> <p>など</p>	<p>・創造の喜びと関心・意欲、想像力の高まり</p> <p>・豊かな発想と創造性あふれる造形活動</p> <p>・制作意図の明確化と表現の工夫</p> <p>・安心感、充実感、達成感の獲得、技能の習得や活用、創造的表現</p> <p>・自己理解と他者理解による造形の共有</p> <p>・鑑賞への関心・意欲、鑑賞力の高まり</p>

(2) 育む造形～学びの気持ち

●教師の学びは、子どもの「夢をはぐくむ」「人（人間性）をはぐくむ」「心をはぐくむ」

子どもの学びは、授業力にかかっている。

◆方策 具体的な研修・研鑽による教師の学びは、より一層子どもの思考と活動を導き、授業力を高めていく。基礎基本プラスアルファの実践の積み重ねを大切にしていく。

- ①サークル内外での研修・研鑽 → 指導力、技能の向上のための実技講習、研究会等への参加。
- ②教科書・指導書の熟読と理解、分析による学習会や模範作品の制作 → 初心の大切さ、基礎基本の学び
- ③教科書題材をもとにした題材づくり → プラスアルファの視点と工夫
- ④授業づくりの発想と構想の工夫 → 情操をはぐくむための意図的な感性・知性の出会いを（第60回函館大会「心うるおす造形活動」の3つのステップの活用）
- ⑤指導案と授業準備等の見直し → 時・場・機会の見直し（第60回函館大会の学習構築ポイントの活用）
- ⑥教材開発と実践交流 → 「こんな実践してみました」、共同実践や若い教師へのエール
子どもの思考と活動にそったワークシート作り など

(3) ひろがる造形～つながる気持ち

●「夢や思い」から、ひろがる造形は、自分と他とつなぎ、創造性を生み、「未来への力」「心の力」「創造する力」となる

◆方 策 造形を通じて、子ども同士の創造性を高めるような題材等の実践を試みることで、感性・知性を刺激し、資質・能力を高めていく。

①北海道のネットワークを活用した出会い・つながり → アートプロジェクトの企画と推進

②地域人材や社会との出会い → 他分野、他校種とのコラボレーションの活用
地元企業との造形的な連携による授業構築

③美術館との連携 → 特別展と関連した授業等の実践，進行中

④他教科，学校行事等への応用 など

3 これまでの成果と今後の展望に向けて

5つの視座と3つの研究実践ポイントにより、「2つのクリエイター」である「子ども」や「教師」のそれぞれの立場や役割，目標などを明確にし，造形教育を考える具体的な実践・学習に結びつけることができた。

大会テーマである「夢」という無限に広がる可能性や理想を、「つくる」という造形教育の立場から考えていくことで，実現可能な現実や，資質・能力の育成や情操をはぐくむための授業のあり方を考えることができた。今後も継続して，造形教育を支える重要なキーワードとしてとらえていきたい。

また，函館，渡島という2つの地域間や全道における「人」の交流，実践交流による連携は，造形の「つながり」「ひろがり」をもたらし，その効果は大きい。今後益々の教師間のつながりや，学びの機会が増えていくことがのぞまれる。

さらに，これまで全道各地で開催されてきた大会は，各地域の造形教育の今を知るとともに，研鑽できるよい機会である。北海道という広範囲な地域では，多様な活動を目の当たりにできる反面，各地域での人材的・物理的な側面，その他様々な側面での縮小化等の課題が浮き彫りとなっている。

今後の全道大会のあり方を考えると，各地域から発信される大会の意義にも増して，年々苦勞の度合いが増えてくることは否めない。だからこそ，北海道造形教育連盟で始めた地域支援プロジェクトを含め，地域から全道に発信し，全道に広げていく展開も視野に入れた支援体制も大切であろう。

地域における造形教育の活性化を目指して，地域間で協力して取り組む授業やプロジェクトを模索していくことは，今後の全道大会でも，北海道を特色づける造形教育の1つとして新たな意義を持つことになるのではないだろうか。

忌憚のないご意見を，全道各地の皆さんと交流し合える大会にしていきたいと考えている。

札幌 川西 立川南校 道庁小野宮	札幌 豊島 立川南校 道庁中野宮	石川 渡大 道庁大野宮	(2中) 渡島の「造形」 下野 祥中 道庁中野宮立川南校	道庁中野宮立川南校 (2中) ひろがる造形 中野 祥中 道庁小野宮立川南校	1-A
札幌 豊島 立川南校 道庁中西	札幌 豊島 立川南校 道庁中西	札幌 豊島 道庁豊島立川南校 道庁豊島立川南校	八雲の造形 (2中) レアな造形は造形一 造形 祥中 道庁小野宮立川南校	道庁中野宮立川南校 (2中) 道庁 豊島 道庁中野宮立川南校	S-A
札幌 新道 立川南校 道庁心象校	札幌 新道 立川南校 道庁中山校	(2中) 本道 道庁大野宮立川南校 道庁大野宮	ひろがる造形 (1中) ひろがる造形 中野 祥中 道庁中野宮立川南校	道庁中野宮立川南校 (1中) ひろがる造形 中野 祥中 道庁中山校立川南校	1-B
札幌 豊島 立川南校 道庁心象校	札幌 豊島 立川南校 道庁中山校	札幌 豊島 道庁大野宮立川南校 道庁大野宮	(2中) ひろがる造形 道 川中 道庁小野宮立川南校	道庁中野宮立川南校 (2中) ひろがる造形 (2中) 道庁中 道 川中 道庁中野宮立川南校	1-C
札幌 区部 道庁豊島立川南校	札幌 区部 道庁豊島立川南校 道 谷川 道庁大野宮立川南校	札幌 区部 道庁豊島立川南校 道庁大野宮立川南校 道庁大野宮		道庁中野宮立川南校 道庁大野宮立川南校 道庁大野宮立川南校	S-A
札幌 道 立川南校 道庁心象校	札幌 道 道庁大野宮立川南校 道庁中野宮立川南校	札幌 道 道庁大野宮立川南校 道庁大野宮	道庁中野宮立川南校 道庁大野宮立川南校 道庁大野宮立川南校	道庁中野宮立川南校 道庁大野宮立川南校 道庁大野宮立川南校	S-C

分科会構成

A：素直な造形～子どもの気持ち 分科会	B：育む造形～学びの気持ち 分科会	C：ひろがる造形～つながる気持ち 分科会
子どもの夢の多面的な 発想・構想・創造を語ろう	授業づくりを 研修・研鑽しよう	地域や人、他分野との つながりを考えよう

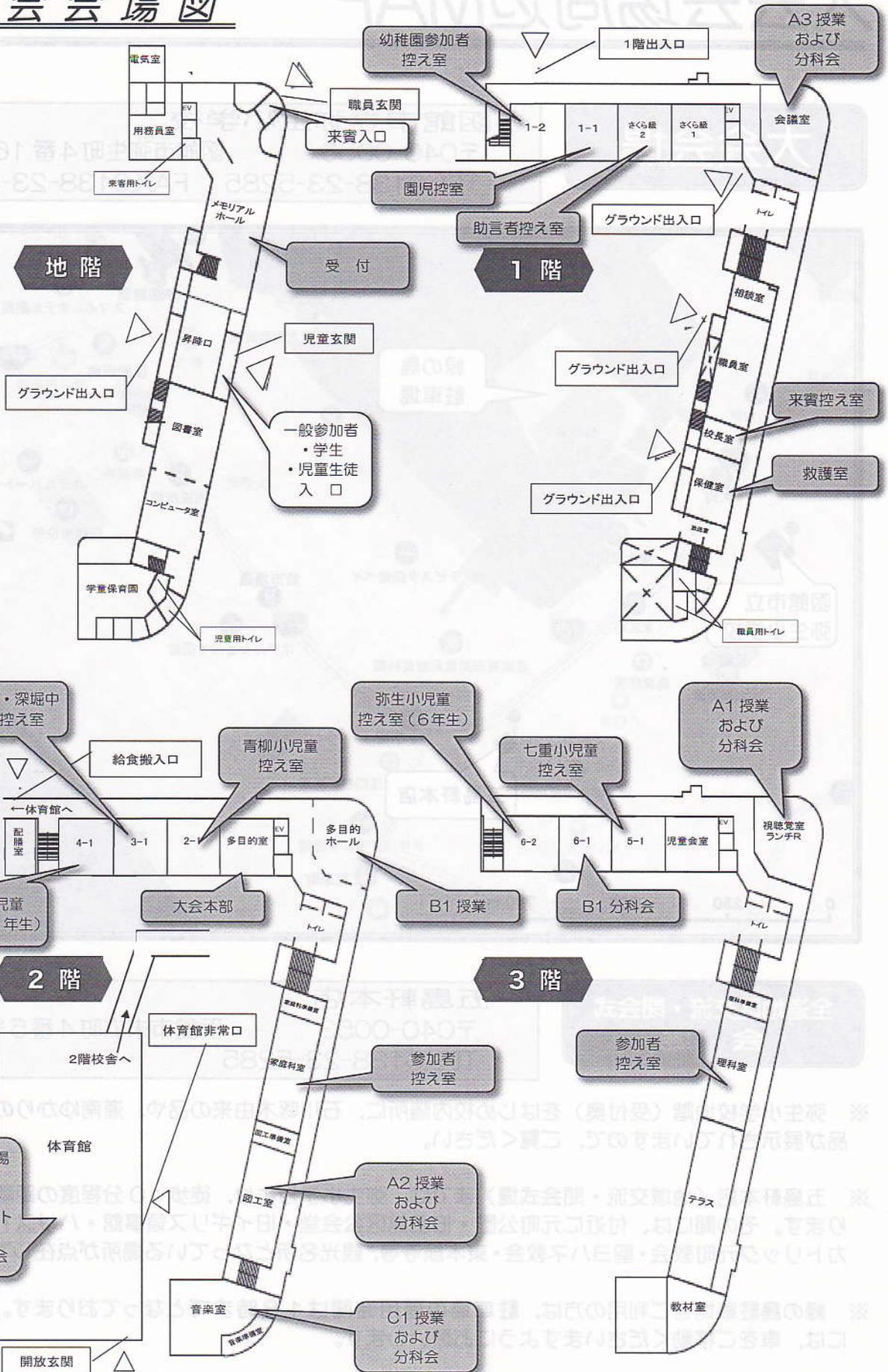
公開授業

分科会名	題材名（学年）	授業者
A-1	「カラフルねんどで」 （立体に表す）（小1）	石岡 寿子／船橋 恭二 七飯町立七重小学校
A-2	「つながる青函，伝えよう魅力」 （中2）	木村 麻岐 函館市立桐花中学校
B-1	「想像の塔」（小3）	赤坂 巖男 函館市立青柳小学校
C-1 上川 市立	「しかべ・アース・アート」 ～人がつながるアートの空間 （中3）	藤本 大介 鹿部町立鹿部中学校
A-3	「花火が ドドン！」 （年長）	清水 里奈／白幡 久姫 函館短期大学付属幼稚園
C-2 函館 西館	北海道 夢ツリープロジェクト 佐藤 光	函館市立弥生小学校5・6年児童／市内美術部生徒 函館・渡島大会研究部

研究協議

分科会名	提言者・提言テーマ		助言者	運営者・司会者	記録者
A-1	「作りたいものを引き出すために」 小規模校での陶芸粘土を 使った作品づくり（全年） 前小屋 学 函館市立本通小学校	夢をかたちにできる 「美術」の魅力（中2） 中村 悠子 新篠津村立新篠津中学校	大橋 功 岡山大学教授	後藤 征秀 函館市立 亀田中学校	宮川 典子 鹿部町立 鹿部小学校
A-2	「bookカバーのデザイン」 （中3） 濱地 文恵 函館市立港中学校	「墨絵の国へ ～想像力を働かせて～」（小6） 栗林 友恵 旭川市立神居東小学校	西岡 裕英 北海道立教育研究所 企画・研修部指導主事	九千房 政光 北斗市立 浜分中学校	長峰 詠子 函館市立 西中学校
B-1	「ビッグネームカード」 （小5） 松田 恭子 函館市立中の沢小学校	「色の列車をつくろう」 美術専科ができること（中1） 齊藤 悦子 北斗市立上磯中学校	橋本 忠和 北海道教育大学 函館校教授	岩館 こすえ 函館市立 赤川中学校	加賀 幸来 函館市立 深堀小学校
C-1	「母校の歴史に名を刻め」の その後（中3） 櫻井 純 函館市立的場中学校	「表現にこめた思い」（小6） 中川 治 札幌市立本郷小学校	花輪 大輔 北海道教育大学 札幌校講師	高島 純 七飯町立 大沼中学校 鈴蘭谷分校	森 泰司 函館市立 光成中学校
A-3	「つくる・かかわる ・ひろがる 楽しさ」 藤谷 貴代 北海道教育大学 附属函館幼稚園		堤 勝幸 函館市教育委員会 教育指導課 指導主事	山下 清江 函館市立はこだて幼稚園 渋谷 恵 函館市立戸井幼稚園	渡辺 香 元町白百合幼稚園
C-2	地域的美術館とつながりひろがる ～発想を得て表現し、発表しよう～ （中3） 更科 結希 北海道教育大学附属釧路中学校	「チーム北海道」を形に ～人と人のつながりづくり～ 館内 徹 札幌市立あやめ野中学校	佐藤 昌彦 北海道教育大学 札幌校教授	富尾 拓 北海道教育大学 附属函館中学校	仮 直人 北斗市立 浜分小学校

大会会場図



大会会場周辺MAP

大会会場

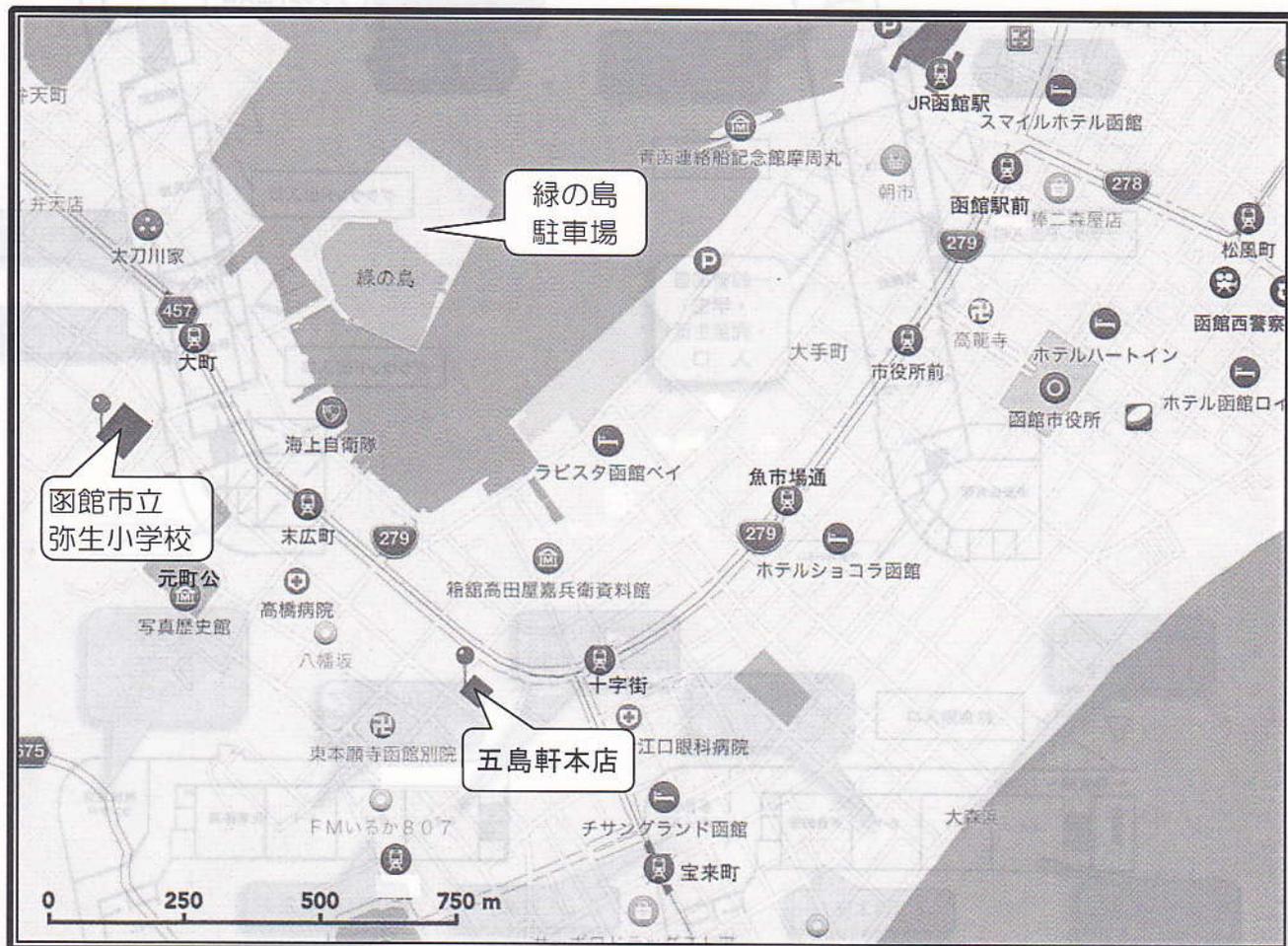
函館市立弥生小学校

〒040-0056

函館市弥生町4番16号

TEL.0138-23-5285

FAX.0138-23-5286



全道地区交流・閉会式 会場

五島軒本店

〒040-0053

函館市末広町4番5号

TEL.0138-23-5285

※ 弥生小学校地階（受付奥）をはじめ校内随所に、石川啄木由来の品や、道南ゆかりの作家等の作品が展示されていますので、ご覧ください。

※ 五島軒本店（地域交流・閉会式場）までは、弥生小学校より、徒歩10分程度の距離となっております。その間には、付近に元町公園・旧函館区公会堂・旧イギリス領事館・ハリストス正教会・カトリック元町教会・聖ヨハネ教会・東本願寺等、観光名所となっている場所が点在しております。

※ 緑の島駐車場をご利用の方は、駐車場の借用時間は18時までとなっております。18時までには、車をご移動くださいますようお願いいたします。

公開授業

公開授業・公開保育 一覧



分科会	授業者	学年	題材名
A-1	石岡寿子／船橋恭二 (七飯町立七重小学校)	小学校 1年	カラフルねんどで (立体に表す)
A-2	木村 麻岐 (函館市立桐花中学校)	中学校 2年	つながる青函, 伝えよう魅力
B-1	赤坂 巖男 (函館市立青柳小学校)	小学校 3年	想像の塔
C-1	藤本 大介 (鹿部町立鹿部中学校)	中学校 3年	しかべ・アース・アート ～人がつながるアートの空間
A-3	清水里奈／白幡久姫 (函館短期大学付属幼稚園)	幼稚園 年長	花火が ドドン!
C-2	北海道 夢ツリープロジェクト 公開 函館市立弥生小学校5・6年児童・市内美術部生徒／函館・渡島大会研究部		

A	素直な造形 ～ こどもの気持ち 分科会 ○ 子どもの夢の多面的な発想・構想・創造を語ろう
B	育む造形 ～ 学びの気持ち 分科会 ○ 授業づくりを研修・研鑽しよう
C	ひろがる造形 ～ つながる気持ち 分科会 ○ 地域や人, 他分野とのつながりを考えよう

【 小学校授業 分科会：A-1 素直な造形 ～ 子どもの気持ち 】

	「カラフルねんどで」	
	七飯町立七重小学校 1年3組 30名 / 指導者 石岡 寿子 船橋 恭二	
夢	つくる	人
◎	○	

1 題材について

1年生の子どもにとっての夢、それは直感として抱き、想像の世界の中でその子なりのストーリーを展開させることだと思います。

紙粘土は、可塑性に富んだ心地よい感触が特徴で、子どもたちにとって魅力的な素材です。そこで、色付き（3原色）の紙粘土を取り上げることで、色の組み合わせや混色の面白さから表現への思いを生み出し、素直な思いをひろげながら表現活動に取り組んでいくと考えました。

題材との出会いでは、絵本の読み聞かせをします。物語の世界をイメージさせることで、個々の子どもの抱くイメージの共有の観点が生まれ、それらの観点で友だちの表現活動と係わることでお互いの発想や表現のよさに気づき、鑑賞の楽しさを味わえると考えました。

表現活動の場面では、粘土に指や手のひら全体で触れさせて粘土の感触を味わわせ、手の巧緻性を高めていきます。また、子どもの発想や構想のよさを「見いだす」「伝える」「つなげる」に努め、創造的な造形活動の楽しさを広げていきたいと考えています。

2 児童の実態

本学級のこどもたちは、明るく朗らかで個性豊かな雰囲気を持っている。反面、まだ幼児期の自己中心性が残り、集団での活動や学習への参加が難しい児童が数名みられる。図画工作の学習では、ものづくりを好む児童が多く、夢中になって活動にのめり込む姿が多く見られる。

4月に行った「好きなもの なあに」という題材では、自分の好きなものを思い思いに絵に描きました。導入時に、好きなものがなかなか決まらなかったり、どのように描けばいいのか迷ってしまったりして、自発的に絵が描けなかった児童が数名みられました。そのため、1学期の間には、子どもたちに、失敗や間違いを恐れずに「自分で決める。」「自分で行く。」ことの大切さを働きかけながら自発的な言動が見られた時には、認め励ましてきました。

粘土の学習では、子どもたちは、油粘土に親しんできました。指先や手の平を使って、粘土を伸ばしたり、丸めたりしながら、思い思いの作品をつくりました。国語や算数の学習への集中力が続かないことが気がかりであった児童が目を輝かせて真剣な表情で粘土に熱中する姿が印象的でした。私が「粘土を頑張っていたね。」と声をかけると、「だって、つくりたい、つくりたいって思ったんだもん。」と笑顔で話す姿が強く印象に残っています。

3 題材の目標

○紙粘土の感触や色の組み合わせ、混色のよさを楽しみながら、思いのままにつくる楽しさを味わう。

4 指導計画

○育みたい資質や能力

(関) 手や体全体を使って粘土にかかわり、形をつくることを楽しもうとする姿勢

(想) 粘土の感触や、手の動きを生かして、様々な色や形を考えようとする力

(技) 粘土のあつかいを工夫しながら、いろいろな色や形をつくろうとする力

(鑑) 形の面白さを感じ取りながら、自他の表現の楽しさを友人と見つようとする力

時数 4	学習活動・内容	評価規準		
		関心・意欲・ 態度	発想や構想 の能力	創造的な技能 鑑賞の能力
1	○オリエンテーション 粘土に触れる ・遊びの共有化（粘土体操） ちぎる 丸める つまみ出す など ◎テーマからイメージをひろ げる。 ※レオ・レオニ 絵本 「あおくと きいろちゃん」	・粘土の素材の おもしろさを味 わおうとする。 ・テーマにそっ て自分なりに考 えていこうとす る。	・テーマにそ って自分な りに色をイ メージしよ うとする。	
2・3 本時	◎粘土で造形遊びをする 「色の仲間を増やそう。」 (相互鑑賞・評価) ■作品づくりについて学習感 想を聞き合う（言） ・できあがりを写真に撮る。	・色の仲間をふ やしていこうと する。 ・友だちのつく っている作品に 興味・関心をも とうとする。	・粘土に触れ たり、色をつ くったり、形 をイメージ したりして 考えようと する。	・カラフルねん どで自分のつ くりたいイメ ージをあらわ そうしてい る。
4	作品交流会			・自分や友だ ちの作品の 良さを見つ けようとし る。

5 本時案（2/4）

- ・目標 カラフルねんどを使って、自分なりの形を楽しくつくることができる。

学 習 活 動	○教師の働きかけ ○共通事項	◆評価 ※支援
■言語活動		
●前時の確認する	○前時の内容を確認させる。	
●本時のめあてを確認する	○本時のめあてを確認させる。 ○学習の準備を確認させ活動させる。	
めあて カラフルねんどを つかって かたちをつくろう。		
●グループ毎に活動する	・子どもの表現活動のよさをひきだす 言葉がけをする。 ○グループで、活動の様子を見合っ て活動させる。	※指や手のひらで粘土の特 性を体感させるようにする。 ◆工夫して粘土で表現して いる。 ◆友だち同士で作品のよさ を話し合っている。
●評価 ■学習感想を發表し合う	○グループ内で自分の作品について 表させ、表現のよさを共有させる。	
●後始末を行う	○協力して後始末を行わせる	

【 中学校授業 分科会：A-2 素直な造形 ～ 子どもの気持ち 】



「つながる青函，伝えよう魅力」

函館市立桐花中学校 2年1組 31名 / 指導者 木村麻岐

夢	つくる	人
◎	○	

1 題材について

古くは縄文時代から人や物の交流があったと思われる函館と青森。青函連絡船やフェリーをはじめ、1988年開通の青函トンネルを使用して、東北地方を訪れる修学旅行生も多い。来年3月には北海道新幹線が開業を予定し、これまで以上に多くの場面で人や文化、経済の交流が盛んになると思われる。

本題材は、今後共に発展していく函館（道南）と青森（東北地方）を1つの大きな地域として捉え、その魅力を伝えようという題材である。本題材では、青函の魅力を効果的に伝えるとともに、夢や想像の世界も含めて発想させ、「こんなものがあったらPRできる」「こんな商品でPRしたい」という思いも大切にしていきたい。ポスターやリーフレットのような平面作品や模型のような立体作品など、魅力の伝え方についても表現方法を自由に選択させる。

また、つながる地域の魅力を多くの人に伝えるために、分かりやすさや美しさなどを考えさせ、その伝え方を工夫させたい。函館と青森をつなぐ夢の架け橋となるような発想をひき出すためにも、アイディアの交流や鑑賞の時間も大切にさせたい。これからの地域を支えていく函館の子ども達が、自分たちの住んでいる函館の魅力を知り、青森の地域とのつながりを考えながら制作していくことで、未来への夢や希望を膨らませて欲しいと考えた。

2 生徒の実態

素直に意欲を持って制作に取り組む生徒が多く、つくることに対して前向きである。絵で表すことに対して苦手意識がある生徒もいるが、文字を使った「楽しく伝えるデザイン」では楽しみながらアイディアを練り、意欲的に制作に取り組んでいた。立体作品では、加工粘土などの可塑性のある素材を好み、楽しみながら制作を進めていた。また、1人でアイディアを練り、発想を広げることを苦手とする生徒や自分の思いを伝えることに慣れていない生徒もおり、授業形態の工夫が必要である。生徒が色々な表現方法で、思いを形に表せるように支援していきたい。

3 題材の目標 「青函の魅力」をテーマとし、表現方法や素材を選択して、デザインを工夫するとともに、そのよさを味わうことができる。

4 指導計画

○育みたい資質や能力		○育みたい資質や能力			
(関) テーマに基づく地域の魅力を見つけ、主体的に活動に取り組む姿勢		(関) テーマに基づく地域の魅力を見つけ、主体的に活動に取り組む姿勢			
(想) 地域の魅力をPRするため、発想・構想する力		(想) 地域の魅力をPRするため、発想・構想する力			
(技) 表現意図に合わせて、素材や表現方法を工夫して創造的に表現する力		(技) 表現意図に合わせて、素材や表現方法を工夫して創造的に表現する力			
(鑑) 作品を通して自分の考えを持つと共に他者の考えを理解し、自他の作品のよさを味わおうとする力		(鑑) 作品を通して自分の考えを持つと共に他者の考えを理解し、自他の作品のよさを味わおうとする力			
時数	学習活動・内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
13					
1	○学習課題の把握 青函の共通点や違いについて調べる。 グループで情報の収集・共有。	学習課題を把握し、意欲的に情報収集に取り組もうとする。			
2 3	○青函地域の魅力を見つけるとともに、魅力を伝えるためのコピーを考え、構想を練る。 ◎形や色彩、材料の組み合わせ等も考え、全体や細部のアイディアスケッチをする。	地域の魅力を見つけ、進んで発想・構想しようとしている。	魅力を伝えるために、形や色彩などの効果を考え、単純化や省略、強調、材料の選択の組み合わせなどを工夫し、構想を練っている。	構想した考えをスケッチに表すことができる。	

4	○表現意図に応じて、材料や道具の選択をし、見通しを持って制作する。	主体的に活動に参加し、日々の制作を振り返りながら、今後に生かそうとしている。		材料や道具を選び、見通しを持って創造的に表現している。	
5					
6	■中間交流				
7	伝えたい魅力や制作の工夫、今後の予定などを交流する。				自他の作品から、よさや工夫について考える。
8	○交流を参考に、完成までの見通しを持って制作する。	他の作品のよさや工夫を参考に制作しようとしている。		見通しを持って創造的に表現している。	
9	○制作の振り返り ■グループで交流。伝えたい魅力や作品の工夫点等を交流し、その魅力を考え、よさを味わう。	作者の意図を感じ取り、その良さを味わおうとしている。			作品のよさを味わい、地域の魅力を見つけたら、自分なりの考えを持つことができる。

※■言語活動、◎共通事項に関連した内容

5 本時案 (6/9)

- ・目標 中間交流を通し、自他の作品のよさや工夫について考えるとともに、自分の表現を見つめ直し今後の制作に生かそうとする。

学 習 活 動 ■言語活動	○教師の働きかけ ◎共通事項	◆評価 ※支援
● 前時までの確認。	○ 前時までの内容を確認させる。	※ これまでを振り返り、伝えたい魅力を再確認させる。
● 本時の目標と活動を確認。	○ 本時の目標と活動を確認させる。	
自他の作品のよさや工夫について考え、今後の表現の参考にしながら制作しよう。		
■グループで1人ずつ順番に発表し、作品を鑑賞する。 発表が終わったら、付箋紙に作品の良い点やさらに工夫できる点を記入する。	◎色や形、イメージなどで伝えたい魅力や制作の工夫・今後の見通しなどの話をさせる。 ○テーマや工夫点を意識しながら鑑賞するように促す。	※作品をもとにして具体的に話していくよう意識させる。 ◆主体的に発表や付箋紙の記入に取り組んでいる。
■付箋を読み上げながら、本人に渡す自分の作品について書かれた付箋は、ワークシートに貼る。		※グループ活動がスムーズに進むように支援する。
● 交流や鑑賞から今後の計画を見直し、ワークシートに記入。	○交流から、さらに工夫できる点がないか見直すように促す。	※魅力が伝わっているか意識させる。 ◆交流や鑑賞から今後の制作に活かせる工夫点を見つけ、計画を見直すことができる。
■交流を通しての参考点や今後の計画について発表。	○具体的な表現方法や計画の変更点などについて発表できるように促す。	
● 他班の作品も見る。	○他班の作品についてもテーマや工夫点を意識するよう促す。	
● 見直した計画に合わせて制作。	○新たに必要なものがないか確認させる。	※新たに必要なものがある場合には準備させるとともに、表現方法で困っている生徒へのアドバイスをする。
● 学習の記録をワークシートにまとめる。	○今日の活動を振りかえさせ、今後の予定を確認する。	※今後に活かす部分を見つけ、主体的に活動できたか振り返らせる。



「想像の塔」

函館市立青柳小学校 3年1組 36名 / 指導者 赤坂 厳 男

夢	つくる	人
○	◎	

1 題材について

この題材では、建ててみたい想像した塔を、ペットボトルなどの空き容器を土台に紙粘土と様々な材料を使って制作させる。(日文 図画工作 3・4上 ハッピー小もの入れ～P36・37, ねん土マイトウン～P46・47 参照)

自分の思いに基づくイメージを、材料を工夫して取り扱い制作させることで、児童の発想・構想の力を育み、感性豊かな夢あふれる塔を表現させたいと考えている。また、鑑賞では、「想像の塔」と小さい「わたし」(日文 図画工作 3・4上 ここがお気に入り～P38・39 参照)を組み合わせることで、新たな目線で自分と友だちの作品の良さに気付かせたいと考えている。

2 児童の実態

図画工作に関しては、全体的に興味関心が高く、他教科で集中できていない児童でも、意欲的に造形活動に取り組むことが多い。

油粘土で立体作品を制作したときは、大胆な表現で広がりが見られたが、写生会で描いた風景画などの平面作品では、表現がコンパクトになりがちである。また、観察が不十分であったりしていねいさが足りなかったりして、表現が雑になってしまう傾向も見られる。

3 題材の目標

自分が建ててみたい「想像の塔」のイメージを広げながら、紙粘土や空き容器などを組み合わせて、形や色、飾り方を工夫して、立体に表現させる。

4 指導計画

○育みたい資質や能力					
(関)「想像の塔」をイメージしたり立体に表したりすることを楽しもうとする姿勢					
(想)「想像の塔」のイメージを、粘土などでどのように立体にするか構想する力					
(技)「想像の塔」のイメージに合わせ、粘土などで工夫して立体に表す力					
(鑑)自分と友だちの作品の良さを見つけ、感じ取る力					
時数	学習活動・内容	評価基準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	想像的な技能	鑑賞の能力
6	○学習課題について知る。				
1	◎テーマについてイメージして、形を発想する。 ・イメージスケッチをかく。	・イメージスケッチを自分なりにかこうとする。	・テーマにそって自分のイメージを形にしている。		
2	◎自分のイメージを立体に表すための材料を選択する。 ・設計図をかく。	・設計図をイメージに合わせてかこうとしている。	・自分なりの「想像の塔」を考えて絵や言葉で表している。		
3 4 5 本時	○材料を工夫しながら「想像の塔」をつくる。			・材料の特徴を生かしながら、工夫して表している。	

6	<ul style="list-style-type: none"> ■友だちと作品を見せ合いながら話し合う。 ・自分と友だちの作品の良いところを見つける。 ・作者の思いを想像したり, 思いを語ってもらったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの作品に興味・関心を持って味わおうとしている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友だちの作品の良さを見つけている。
---	--	--	--	--	---

※ ■言語活動, ◎共通事項に関連した内容

5 本時案 (4/6)

- 目標 (1)「想像の塔」のイメージを広げながら, 形や色, 模様や飾りなどを工夫してつくる。
- (2)自分と友だちの表し方の違いや良さを感じ取って, 伝え合うことができる。

学 習 活 動 ■言語活動	○教師の働きかけ ◎共通事項	◆評価 ※支援
<ul style="list-style-type: none"> ●本時の学習内容を確認し, 学習の見通しを持つ。 ●本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しを持ち, 活動への意欲を高める。 ○本時のめあてを確認させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「想像の塔」をつくろう!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くふうして表す。 形, 色, もよう, かざり ・友だちと伝え合う。 よいところ, アドバイス </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ●工夫して制作する。 ■随時途中作品を見合い, 説明や気づき, アドバイスを伝え合う。 ●意見交流から思い付いたイメージやアイデアを基に, 表現を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で考えた「<u>想像の塔</u>」のイメージについて問いかけ, <u>表現したいことを確認しながら活動できる</u>よう助言する。 ◎形, 色, もよう, かざりなど表現の工夫について問いかけ, 児童自らがそのよさに気付くよう助言する。 ◎友だちと互いの<u>作品を見合い</u>ながら, 表現の工夫や思いを交流し, イメージやアイデアを広げられように促す。 <p style="color: red; font-family: cursive;">たかろ 自分は今月。 } カトクzak</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の思いを大切にしながら制作している。 ※設計図は手元に置いて, 確認できるようにさせる。 ◆作品の良さを話し合っている。 ◆意見交流を参考にして, 自分の思いを大切にしながら制作している。 ※制作しながらの意見交流をしやすいするため, グループは3~4名の構成とする。
<ul style="list-style-type: none"> ●本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返らせ, 次時の活動へ意欲をつなげる。 	

【 中学校授業 分科会：C-1 ひろがる造形 ～ つながる気持ち 】

	「しかべ・アース・アート」～人がつながるアートの空間		
	鹿部町立鹿部中学校 3年A組 26名 / 指導者 藤本大介		
夢	つくる	人	
○	○	◎	

1 題材について

彫刻家のイサム・ノグチ氏は、古墳や古代遺跡、日本庭園などから着想を得て、「地球」を彫刻の素材とした表現活動（通称「アース・アート」）を追求していた。このアース・アートの定義は、都市空間の一角が、「美的な観点から総合的にプロデュースされた空間」を創る表現活動とされている。

イサム・ノグチ氏は、美術（彫刻）作品を、広く市民の触れあう場所、すなわち一般に知られる「公園」をアース・アートの題材として取り扱った。市民や子供たちが集い、遊び場になることで設定された空間が芸術作品として完成することを目指した。その完成形の一つが札幌市のモエレ沼公園である。

本題材は、イサム・ノグチ氏の表現活動（特にモエレ沼公園）から着想を得て授業を構成した。題材名を「しかべ・アース・アート」と銘打ち、ノグチ氏が提唱するアース・アートの意味や目的を踏まえた上で、生徒が、自分達の住む町鹿部町を舞台に、人々が集い楽しめる空間を考案し、作品（縮尺模型）として制作することを活動の中心とした。そして制作におけるテーマや工夫した点などを全体に提案（プレゼンテーション）することを、本時案として設定した。

今回の研究実践テーマの一つ「ひろがる造形～つながる気持ち」に関連し、町内の小学校、そして本校の中学校から公園の具体的なアイデアをアンケート形式で公募し、それを受けて公園の具体的なテーマ、スペース、遊具などの構想を話し合いながら深めてきた。また、鹿部町役場の地域観光科の担当者と連携し、本題材を「鹿部町おこし運動」と関連させ、町を活性化させるための中学生からの提案という形で進めてきた。そのため、本時には、地域行政の方面からの助言を取り入れる場面を設定した。

このように、地域や、人との「つながり」、そしてそこから自分たちの発想を「ひろげる」ことを重点に、今回の授業構成を行った。

2 生徒の実態

小学校から1学級の構成で進級・進学を続け、互いの事を尊重し理解し合っている学級の雰囲気を感じられる。鹿部町に愛着があり、町内に新しい「集いの空間」を作ることに関しては、興味関心が高い。美術における制作意欲も総じて高く、イメージを摺り合わせる話し合い活動の段階から、熱心に取り組んで来た。本時案に関わっての既習事項については、考えの根拠を基に自分の考えを伝える「発表」の部分で、他教科（国語科など）でも重点をおいて取り組んできている。

3 題材の目標

自分たちが住む町において、人々が集い楽しめるような公園のデザインを、地域や人とのつながりの中で考え、様々な材料で作品を工夫して作ることができる。

4 指導計画

○育みたい資質や能力					
(関) 「アースアート」の意味や目的を理解し、意欲的に公園デザインの構想に取り組む姿勢					
(想) みんながより良く集い、楽しめる空間としての公園デザインを発想する力					
(技) 考案したアイデアを、様々な材料や技法を用いて表現する力					
(鑑) 作品のテーマや制作内容を分かりやすく伝える力や他のグループの発表を聞き取る力					
総時数 (7)	学習活動・内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	<p>○鑑賞</p> <p>彫刻家イサム・ノグチ氏の作品を観て、感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アース・アート」の意味を知る。 ■「モエレ沼公園」の鑑賞を通して、ノグチ氏の制作意図と思いを感じて、考えや感想を話し合う。 	<p>・イサム・ノグチ氏の作品や考え方に興味をもち、良さを味わおうとする。</p>	/	<p>・イサム・ノグチ氏の作品を観て、模写の形で自分なりに表現することができる。</p>	<p>・作品を観て感じた思いを、自分の言葉で話すことができる。</p>

2	◎構想 ■鹿部町に、みんなが集い楽しめるような公園デザインを考える。 ■公園デザインの6つのテーマを、各グループに分け、各グループで具体的な遊具やスペースを考える。	・鹿部町の特徴やアピールポイントや地域色を生かした公園を考えようとする。	・鹿部町の特徴を踏まえた上で、独創的な遊具等をデザインすることができる		
3~5	◎制作表現 ・各グループで、公園の各エリアの縮尺作品を制作する。 ・色々な材料を工夫して制作する。	・グループ内で協力しながら制作活動にあたらうとする。	・鹿部町の特徴を生かしたデザインを構想することができる。	・材料や技法を工夫して構想を具体的に表現することができる。	
6	○プレゼンテーション（準備） ■各グループごとに、作品の紹介と説明の準備を考える。	・説明内容を、分かりやすく整理しようとする。			
7 本時	○全体プレゼンテーション ■グループごとに、作品の紹介と説明を、役割分担に応じて行う。 ・各グループの作品を合体し完成させる。 ■全体説明（代表）と講評（役場担当）	・グループ作品の特徴を、分かりやすく整理し、伝えようとする。			・互いの作品の良さや工夫したところを認め、味わおうとする。

※■言語活動、◎共通事項に関連した内容

5 本時案（7/7）

- ・目標 (1) 制作についてのテーマや、内容などを分かりやすく発表することができる。
- (2) 他グループの発表に関心を持ち、よさや美しさを感じ取ろうとすることができる。

●学習活動 ■言語活動	○教師の働きかけ ◎共通事項	◆評価 ※支援
●本時の目標及び活動内容を確認する。	○本時の目標及びプレゼンテーションの発表内容を確認した上で、学習の意欲づけを行う。	
学習目標：思いや考えを伝え合おう ～夢のしかべ・アース・アートの完成		
■グループ毎に、プレゼンテーションを行う。（全6班） ■カメラ、PC を用いて視覚的に分かりやすく説明内容を提示する。 ■全てのグループの発表後、6つのエリアを合体させ、一つの共同作品として完成させる。 ■代表から総括、まとめを話す。 ■鹿部町役場の担当者からの講評を聴き、発表の反省や感想を各自振り返りシートにまとめる。	○事前学習で、発表内容を以下の項目に設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①担当エリアのテーマ ②役割分担 ③エリアの特徴・アピールポイント ④遊具やスペースの紹介 ⑤質疑応答 </div> ◎各グループの発表がスムーズに流れるように、適宜声かけや支援をする。（教師・役場担当） ○各グループの良い点を認め、評価する。 ◎制作や発表における成果と課題に関して、生徒たち自分の声や発想を大切に、広げる関わりをする。 ○各グループの表現の良さを認め合う雰囲気づくりができるように配慮する。	◆発表内容を整理し、分かりやすく説明を行う事ができる。 ※カメラやPCの基本的な使用方法を事前に学習しておく。 ※発表形式や流れを事前学習で確認しておく。 ◆発表に関心を持ち、よさや美しさを感じ取っている。 ※各エリアが合体する状況を見やすくする棚を用意する。 ◆制作ワークシートと、振り返りシートを基本に、活動と発表の評価をする。

【 幼稚園授業 分科会：A-3 素直な造形 ～ 子どもの気持ち 】

	「花火が ドドン！」 函館短期大学付属幼稚園 ふじ・うめ組合同 32名 / 指導者 清水 里奈 白幡 久姫		
	夢	つくる	人
◎	○	○	

1 題材について

・この題材では、色紙等を使って、自分なりの夢のある打ち上げ花火を製作させる。自分の考えやアイデアを生かすことで、楽しさがあふれ出る夢の花火を表現させたい。教材を工夫してあつかうことで、発想を活かし、感性豊かな打ち上げ花火の形を表現させるようにしていきたい。特に、自分の思いにもとづくイメージと形を意識させて製作させることで、園児の発想・構想の力を育みたいと考えている。

2 園児の実態

・年長2クラス、男児10名、女児22名、計32名のクラス構成である。
 進級当初からふじ組・うめ組交流しながら、いろいろな活動を合同で行うことが多く、仲良く一緒に遊ぶ姿が見られる。活動に対しては意欲的で心一つにしながら、年長としての力を発揮している。

3 題材の目標 楽しい夢の打ち上げ花火をイメージし、色紙等の特性に触れながら、工夫して自分なりに表現させる。

4 指導計画

○育みたい資質や能力					
(関) 色紙等の素材を味わい、テーマにそって表現し工夫して作ろうとする姿勢					
(想) テーマにそって、形や飾りをイメージして発想する力					
(技) 形や飾りを作るために道具を選択し、工夫して表す力					
(鑑) 友だちの作品の良さを見つける力、またそれらについて話す力					
		評価規準			
時数	活動・内容	関心・意欲 ・態度	発想や構想の 能力	創造的な技能	鑑賞の能力
3					
1	○色紙等に触れる。 ・遊びの共有化 切る 貼る 丸めるなど ◎テーマについてイメージして、形や飾りを発想する。	・色紙等の素材のおもしろさを味わおうとする。 ・テーマにそって自分なりに考えていこうとする。	・テーマにそって打ち上げ花火をイメージして考える。	・テーマに合った素材を選択する。	
2 本時	◎色紙等で造形遊びをする ・使う材料を選択し、花火の製作をする。	・夢の打ち上げ花火を工夫して作ろうとする。	・色紙等に触れたり、道具を使ったりして形や飾りをイメージして考える。	・形や飾りを作るために道具を選択して色紙等で表現する。	

	○話し合いをする。 ・できた作品について，感想を伝えたり，話し合う。	・友だちの作っている花火に興味 ・関心をもつ。			・自分や友だちの作品の良さを見つける。 ・できあがった花火を見て感動を共感する。
3 発展	○「花火ゴマ」を作る。	・回る花火ゴマを工夫して作ろうとする。	・回した時のことをイメージしながら考える。	・コマ作りにあった素材を選択し，回るコマを工夫する。	

5 本時案 (2/3)

- ・目標 (1) いろいろな材料を使い，工夫して花火を作ろうとする。
(2) イメージをふくらませながら表現する楽しさを味わうことができる。

時刻	環境構成	予想される幼児の姿	援助・留意点
8:50		◎登園する。 ・所持品の始末をする。	・挨拶を交わし身支度を済ませ座るよう声がけをする。
9:00	・いろいろな材料を準備し，各コーナーに用意しておく。 〈教材準備〉 キラキラテープ モール 折り紙 スズランテープ 紙テープ 色画用紙 セロテープなど	◎花火を製作する。 ・好きな材料を使い花火を作る。 ・イメージをふくらませながら楽しんで作る。 ・完成した花火を台紙に貼る。 ◎話し合いをする。	・花火のイメージがふくらむよう，今までの活動を振り返りながら，声がけや援助をする。 ・花火ができあがってきたら台紙を広げて，雰囲気作りをする。 ・楽しく作ったことやいろいろな表現の仕方を話し合い完成を喜び合う。 ・次の遊びに広がるような言葉掛けをする。
9:40		◎片付けをする。 ◎降園準備をする。	・友達と協力して片づけるよう声がけをする。 ・楽しい夏休みを過ごし，2学期に期待を持てるような話をする。
9:50		◎降園する。	・挨拶を交わし降園する。

《評価》

- ・いろいろな材料を使い工夫して花火を作ることができたか
- ・イメージをふくらませ，表現する楽しさを味わうことができたか

【アートプロジェクト 分科会：C-2 広がる造形～つながる気持ち】

	「北海道 夢ツリープロジェクト」の実施について 第65回全道造形教育研究大会函館・渡島大会 実行委員会 研究部		
	夢	つくる	人
	○		◎

1 経過

今大会のテーマ「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育～」を決定した際、5つの視座から造形教育を考えていくことにした。その1つ「私たち、北海道のクリエイター」としての造形教育・北海道をひとつの地域、チームとしての造形教育を考えよう。」をベースに、3つの研究実践のポイントのうち、三つ目の「ひろがる造形～つながる気持ち」に関連させ、大会の活性化と全道ネットワークを使用したアートプロジェクトを立ち上げていくこととした。

第55回函館大会では、地域に視点をおき、その中で、地域人材の活用と、地域に根ざした造形教育を視점에、当時、函館で情報デザインの分野で活躍していた方と地元大学生と地域の小中学生がコラボレートした。ここでは、地域とデジタルアーカイブを連携させ、地域における美術の教育活動あり方を考える機会を設定した。(第55回函館大会紀要参照。成果については、アンケート結果を踏まえて大会集録に掲載している。)

今回の大会では、そのような経過をふまえ、子どもと教師が、北海道という広い地域を1つに感じ取ることができることを提言していきたいと考えた。オール北海道を対象としたアートプロジェクトとしては、大会初の実践であると思う。

実施に向けては、北海道の各地区サークルの協力が必要であり、造形連盟の総会で説明した際には、各地区から協力への賛同の声を聞かせていただいた。協力をいただいた全道地区の皆さんには大変感謝している。

2 ねらい

研究主題「夢・つくる・人～未来はぐくむ造形教育～」の研究実践の視点の1つ【ひろがる造形～つながる気持ち】と関連させ、地域や人、他分野とのつながりある造形教育を考えるアートプロジェクトとし、北海道をひとつの地域、チームとしての実践としたい。

3 アートプロジェクト概要

全道各地の子どもたちの夢や希望を一枚の葉「フューチャーリーフ（未来の葉）」に描いてもらい、集まった葉を函館・渡島の子どもたちと共に、「夢ツリー」（大会のシンボルツリー）に飾り付け、全道の子どもたちの夢を共有するような表現活動にしていく。

○「夢ツリー制作」参加者

会場校の弥生小の子どもたちと市内中学美術部の生徒若干名【サブリーダー】

○指導者 大会研究部教師 若干名

【手順】

①全道各地区の小中学生に、「フューチャーリーフ（未来の葉）」参加者を募集する。

・全道各地区サークル毎に参加希望校別に参加人数予定と学校担当者名を集約する。

②参加地区サークル毎に参加者の「フューチャーリーフ」を送付していただく。

③函館の児童・生徒により、夢ツリー（大会のシンボルツリー）をつくり、全道の子どもたちの夢を共有しあう場とする。

④大会当日、制作の様子を公開する。 → 分科会提言

※その他

各地区サークル毎に「フューチャーリーフ」参加の案内と集約、材料費と送料の負担を協力していただいた。また、フューチャーリーフは、返却できないので、その旨をご理解いただいた。



事前準備に取り組む中学生たち

4 プロジェクトの実施にあたり

ねらいをふまえたプロジェクト実施のキーワードは、次のようになる。

- ①当日の時間内でできるプロジェクト
- ②造形を楽しむプロジェクト
- ③夢を共有するプロジェクト
- ④人がつながるプロジェクト

北海道という広い地域において、人的交流、造形的交流手段を考えたとき、距離的、物理的な課題が多い。

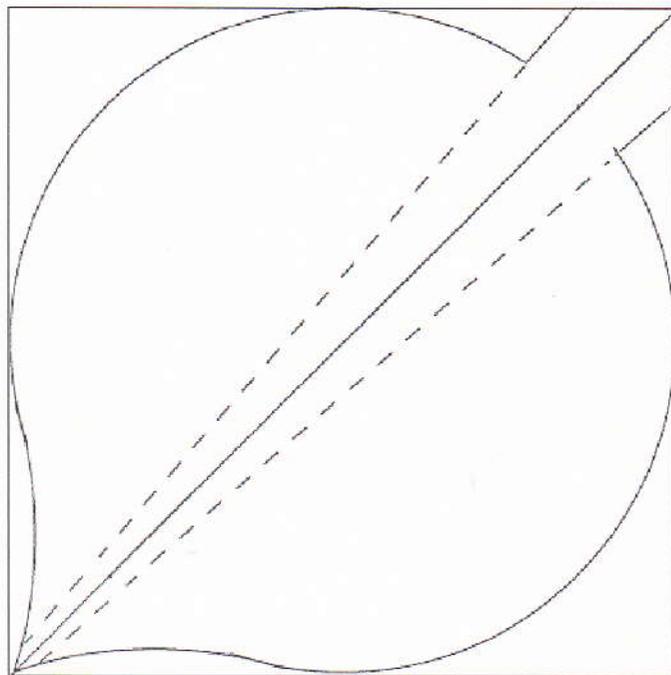
しかし、長年にわたり積み上げてきた地域のつながりある全道の研究会の協力体制を生かすことで、様々な取り組みが可能となると考えた。様々な通信コミュニケーション手段を活用しながら、地域をつないでいく全道大会のあり方の一つの実践としてとらえていただきたい。

今後、その成果や課題については、参加協力していただいた皆さんからの忌憚のないご意見・ご感想をいただきながらまとめていきたいと考えている。今後の授業などへの展開を期待したい。

(文責：佐々木善憲)

★ フューチャーリーフのつくり方

- ① PDFファイルから型紙を印刷し、適宜お使い下さい。
- ② 用紙の大きさは15cm×15cmで、色紙（一般的なもの、模様あり、ホログラム模様、色上質など）を使用します。色の指定はしません。カラフルな色を期待しています。色画用紙は、重さの関係があるので使用しないで下さい。
- ③ 切り抜いたフューチャーリーフの色のついた側に、身近な夢、将来の自分の夢や願いなどをサインペンなどで書きます。イラストなどを描いてもよいです。
※ 名前は、個人情報保護の観点からフルネームでなくてよいです。イニシャルやニックネームでもよいです。
- ④ フューチャーリーフを折り線のとおり折って、内側を隠付けて完成です。送付先に郵送願います。



—— 山折り
- - - 谷折り



こんな感じになります

提言

分科会の提言一覧



分科会	授業者	題材名
A-1	前小屋 学 函館市立本通小学校	「作りたいものを引き出すために」 小規模校での陶芸粘土を使った作品づくり
	中村 悠子 新篠津村立新篠津中学校	夢をかたちにしてできる「美術」の魅力
A-2	濱地 文恵 函館市立港中学校	book カバーのデザイン
	栗林 友恵 旭川市立神居東小学校	墨絵の国へ ～想像力を働かせて～
B-1	松田 恭子 函館市立中の沢小学校	ビッグネームカード
	齊藤 悦子 北斗市立上磯中学校	色の列車をつくろう 美術専科ができること
C-1	櫻井 純 函館市立的場中学校	「母校の歴史に名を刻め」のその後
	中川 治 札幌市立本郷小学校	表現にこめた思い
A-3	藤谷 貴代 北海道教育大学附属函館幼稚園	つくる・ひろがる・かかわる 楽しさ
C-2	更科 結希 北海道教育大学附属釧路中学校	地域の美術館とつながりひろがる ～発想を得て表現し、発表しよう～
	舘内 徹 札幌市立あやめ野中学校	「チーム北海道」を形に ～人と人のつながりづくり～

A	素直な造形 ～ こどもの気持ち 分科会 ○ 子どもの夢の多面的な発想・構想・創造を語ろう
B	育む造形 ～ 学びの気持ち 分科会 ○ 授業づくりを研修・研鑽しよう
C	ひろがる造形 ～ つながる気持ち 分科会 ○ 地域や人、他分野とのつながりを考えよう

【 小学校提言 分科会：A-1 素直な造形 ～ 子どもの気持ち 】



「作りたいものを引き出すために」～小規模校での陶芸粘土を使った制作～

函館市立本通小学校 前任校の全学年 / 指導者 前小屋 学

夢	つくる	人
◎	○	

1 題材について

- ・焼成粘土による制作は、子どもたちは、「形が残る。」「実際に使える。」という点に大変ひきつけられる。子どもたち自身で作品を作れる環境を整え、子どもたちの意欲が持続して楽しく、形が残る立体作品の制作を楽しませたい。
- ・前年度までの児童の経験してきた技能や発想をふまえた上で、作りたい物をより自由に発想できるように工夫した。
- ・作品は实际生活に使えるものが多く、そのことを期待する子どもも多い。鑑賞の際には実際に使ったりした感想を発表しあうなど、作品に浸らせるようにしたい。
- ・本校は小規模校のため、学習内容に応じて全校図工を行っている。全校で行う際には、上級生が下級生に教える機会を設定し、より学習を深められるようにしている。

2 題材の目標

- 低学年 ・かたおしやかたぬきから思いついたものを作ろうとする。
- 中学年 ・粘土のつけ方や削り方を工夫して、焼き物を作る。
- 高学年 ・焼き物制作の技法を生かして、目的に合わせた物作りをする。

3 指導計画

○育みたい資質や能力						
(関) 粘土の素材を味わい、テーマにそって表現を工夫してつくろうとする姿勢						
(想) テーマにそって、実際に使うことをイメージして発想する力						
(技) 形作るために道具を選択し、工夫して粘土で表す力						
(鑑) 友だちや自分の作品の良さを見つけ、それについて話す力						
時数	学習活動・内容	評価規準				
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
5						
1	<p>【中学年】食器を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●たまつくり・ひもつくりその他の活動を行う。 <p>【高学年】器を作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●たまつくり・ひもつくりやその他の活動を行って、焼き物作りの基本を確かめる。 ●中学年に教えながら活動を行う。 	<p>中粘土で器をつくることに興味をもち、楽しく取り組もうとする。</p> <p>高目的に応じた器を楽しくつくろうとする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 授業時間数については 低学年は4 中・高学年は5 </div>			
2・3 3本時	<p>【低学年】かたぬきあそびをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ●かたぬき遊びをする。 ●のし棒で板を作って紙皿にくっつける。 ●お皿にかたぬきしたものをくっつける。 <p>【中学年】食器をかざろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●飾り付けの計画を立てて制作を行う。 <p>【高学年】器を作る計画をたてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作りたいものをきめて制作計画を立てる。 ●これまで学習したことを生かして計画したものを作る。 	<p>低かたぬきあそびに興味をもって楽しく取り組もうとする。</p>	<p>低かたぬきしたものをくっつけて楽しく活動できたか。</p> <p>中器の形を考えた、きれいに飾ろうとしたりする。</p> <p>高自分の作りたいものの形や飾りを考え、形に表そうとする。</p> <p>高形や飾り付けを見通しをもってつくることができたか。</p>	<p>中飾り付けをいろいろ試しながら自分だけの器をつくることができたか。</p>		

1	<p>【全学年】</p> <p>●素焼きしたものに下絵付けをおこなう。</p> <p>※透明の釉薬をかける部分は、難しいので教師の側で準備をする。</p>		<p>低 好きな色をつけることができたか。</p> <p>中 器に合った色を選んで色をつけることができたか。</p> <p>高 器に合った色や模様などをつけることができたか。</p>		
1	<p>【全学年】</p> <p>○友達の作品をみて交流し合おう。実際に使ってみよう。</p> <p>●友達の作品の良いところを見つけて発表し合おう。</p> <p>●自分の使い方に合わせて実際に使ってみる。</p>		<p>低 作品を使って楽しもうとする。</p> <p>中 作品を使って楽しんだり、友達の作品よいところを発表しあったりしようとする。</p> <p>高 作品を実際に使って良さを味わったり、友達の作品のよいところを発表しあったりしようとする。</p>		

4 実践の視点と経過

【低学年の様子】

- 低学年は周りの活動の様子を見たり、実際に教えてもらったりすることで、積極的な活動を引き出すことができた。教えてもらうだけでなく、型抜きについては逆に中学年に教えながら制作をした。中学年と会話しながら制作を進めることで、自分の思いを伝えながら作品を完成させることができた。



【中学年の様子】

- 中学年の児童は昨年までの経験を教えながら学習を深めることができた。

【高学年の様子】

- 前年度は初めての器作りということで、教師主導で行ったため、自由な発想を引き出すところまでいけなかった反省があった。本授業では自分の作りたいものに合わせて、作り方を選び、計画的に制作を進めることができた。



- 反省点としては、ひも状にして積み上げていく作業は、なれない子どもたちには難しかった。高く積み上げるうちに、徐々に広がっていき、作ろうとした形にうまくまとまらないなどの声も聞こえたので、身の回りにある入れ物を活用して作るなどの工夫が今後必要である。

5 今後の課題とまとめ

- ・陶芸粘土を使った学習では、技術的な指導が多かった。児童の発想を大事に、かつ、作品として完成できるように（技術面）、と言う両方のバランスを考えることは今後も大事である。
- ・全校授業は少人数で自分の思いを語りながら作ることで制作に深まりが出る良さがある。
- ・全校授業を行うに当たっては教育課程の作成の際に、各学年で内容を同時期にそろえるなどの工夫が必要である。「各学年の系統性を考えて、小学校6年間でどのように育成するか。」について考えるよい機会となった。

6 その後の授業について

①全校授業について 小さい学校の特性をいかして

- ・児童の見取りのしやすさ
- ・学年の系統性の把握のしやすさ（教育課程の工夫）

②「ゆめ」の実現へ

- ・制作の自由度の高まり（子どもの思いと表現方法の見通し）

H24 年度の実践



実際に身の回りにある物に粘土を貼り付けて制作を行った。玉作り、ひも作りでは、子どもが作ることでできる形に限りがある。そのため、さらに作り方の選択を増やした。この方法では、自分の作りたい形を短時間で簡単に作りやすくなり、器の飾りを考える時間を増やすことができた。

- ①作りたい物を考える。
- ②作りたい物に近い形のものを探す。
- ③新聞を貼り付ける。
- ④粘土を貼り付けていく。（左の写真参照）
- ⑤入れ物を外す。



H23 年度に比べて高さのあるものや、大きな物も作ることができるようになり、制作の自由度が高まった。これまでに2年間行ってきたので、子どもたちも出来上がる作品に見通しを持てるようになり、「お菓子入れをつくりたい。」「ペットに餌をあげる入れ物をつくりたい。」などの声があがり、具体的な目的をよりもって作品作りを行うことができた。



H25 年度の実践

昨年の経験から、これまでと違った物に挑戦する子も出てきて、大きなお皿や、背の高い花瓶を作った。身の回りにあるものを利用して、だいたいの形を作り、そのあと自分の好みの形に変える工夫も見られるようになった。



子どもたちの経験が高まると作りたい物に広がりが出てきた。

高さのある花瓶をつくるために逆さまにして、底の形を作成している。



H26 年度の実践

粘土による鈴作りを行った。これまでの陶芸粘土の扱いを生かして、器以外でもっと自由度が高い制作を行った。

普段お世話になっていた八雲町教育委員会の窯が事情により利用できないということで、素焼きで作品として仕上がる内容から選んで結果でもあるが、ドベを使った接着などがこれまでの制作の中で定着し、いろいろな物を取り付けて作りたい物をのびのびと制作していた。



1年生は、油粘土での制作を学級で行う図工の経験を生かして、自分の作りたいものを形にした。陶芸粘土として、気をつけなくてはならない、乾燥のことや、ドベを使った接着などについては、上級生が教えるなど、全校図工のよさが見られた。(写真：作品かめ)



3年生は、基本の玉の形から、ひねりだして作りだした。

4年生のうち、一人は、基本の丸い形に魚の部品をたくさんつけたして形を作りだした。(写真：魚)



もう一人は、基本の丸い形を面を意識しながら変形して、作品作りを行っている。(写真：いちご)

子どもたちはそれぞれ、自分の作りたい形や自分の好みの作り方を選んで作品を作った。

亀の甲羅の模様や、いちごの種をつぶつぶを、鈴が鳴るようにする穴として使う工夫が見られた。

【 中学校提言 分科会：A-1 素直な造形 ～ 子どもの気持ち 】



「我が社のロゴマークをデザインしよう」

新篠津村立新篠津中学校 2年 / 指導者 中村 悠子

夢	つくる	人
◎	○	

1 題材について

- ・本題材は、自分が作りたいと考える会社を実際に設立したと想定し、会社のイメージやターゲットに合わせてその会社の顔とも言える会社（ブランド）ロゴマークを表現する造形活動である。子どもたちの「こんな会社・お店があったらいいな」という夢あふれる想いを制作のスタートにし、本当に会社をおこしたらどうなるだろうと深くまでつきつめ、イメージをかたちにする楽しさを感じさせたい。また、マークのデザインにおいては、美しくわかりやすく伝えることが必要である。ターゲットを絞り、主体的に客層を考えてより伝えるための工夫を加えながら発想や構想をし、オリジナルのデザインを表現していく。

2 題材の目標

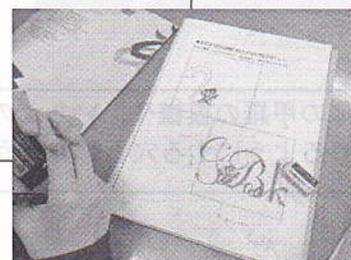
- ・生活の中に使われているサインやマークなどの視覚伝達デザインを基に、伝わりやすくする工夫について考えたり、デザインしたりする。

3 指導計画

○育みたい資質や能力

- (関) サインやマークのデザインに感心をもち、主体的に創意工夫して表したり、表現の工夫などを感じとったりしようとする姿勢
- (想) 多くの人に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして、わかりやすさや美しさなどを考え、マークデザインの構想を練る力
- (技) 伝えたい内容を絵の具や色画用紙、描画材を生かして効果的に表現する力
- (鑑) お互いの作品をもとに話し合い、わかりやすいデザインとは何かを考えながら作者のねらいや創造的な表現の工夫を感じとる力

時数	学習活動・内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	○マークの役割を知る。 ・色々なサインやマークを鑑賞し、デザインの要素、工夫の違いを考える。 ・「こんな会社があったらいいな」と思う、自分の会社を考える。	・伝えたい内容を分かりやすく親しみやすい形や色彩にする工夫に関心をもち、発想を膨らませようとしている。	・自分の表したい主題を見つけ、発想を広げている。		・色々なサインやマークから、伝えたい内容を想像したり、形や色彩についての工夫を考えたりする。
2・3	◎マークをデザインする。 ・会社のイメージが伝わりやすいデザイン（色・形）とはどのようなものかを考えなが	・主体的に創意工夫して表そうとしている。	・伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの		



	<p>ら、効果的なデザインのアイディアスケッチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作の途中でグループ交流も行いながら、デザインを練り直し、よりよいものにしていく。 		<p>効果を生かして、わかりやすさや美しさなどを考え、マークの構想を練っている。</p>		
4・5	<p>◎決定したデザインをケント紙に転写し、アクリル絵の具で彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より伝わるマークにするために、絵具の濃さや適切な筆の選び方や使い方などを考えながら着色する。 	<p>・描画材料の特性を生かし、表現技法を工夫しようとしている。</p> 		<p>・描画材料の特性を生かし、意図に合う新たな表現技法を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順なども考えながら見通しをもって表現している。 	
6	<p>◎マークとともにどんな会社なのか伝わるまとめ「会社紹介シート」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「より伝わるまとめ方」を意識し、会社紹介シートを作る。 	<p>・色彩のもつ効果を考えながら画用紙や描画材を選び、主体的に創意工夫して表そうとしている。</p>	<p>・伝えたい内容を多くの人に伝えるために、色彩などの効果を生かし、わかりやすさや美しさなどを考え、構想を練っている</p>	<p>・描画材料の特性を生かし、意図に合う表現技法を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順なども考えながら見通しをもって表現している。 	
7	<p>○相互鑑賞・評価</p> <p>■グループで作品について話し合う。(言)</p> <p>○制作を振り返る。</p>	<p>・友達の作品の意味、よさや美しさ、表現の面白さ感じ取ろうとする。</p>			<p>・作者の意図を感じとりながら、自分の価値意識をもって味わっている。</p>

4 実践の視点と経過

- ・子どもたちの中にある「こんなことができたらいいな」と思う夢を、少しでもかたちに出来る美術の授業をと思い、授業づくりを行った。実際に会社をおこすことはできなくとも、イメージをすること、そしてそれを形にすることの喜びを味わうことができる授業づくりを目指した。

5 今後の課題とまとめ

- ・本研究の「素直な造形 子どもの気持ち」の視点に関わって、「こうしたい!」と思う気持ちを全面に盛り込むことを重視して授業を構築した。発想段階におもきを置くことで、自分だけの会社を考える段階では、オリジナルのキャラクターや細かな商品と値段設定、お店の外観はこんな風がいい、などと、深くつきつめて考えている様子も見られた。その結果、マークデザインの段階で「伝えたい会社のイメージを、マークでどのように伝えるか」をしっかりと考えることができたように思う。しかし、まだイメージを形にする段階での躓きを抱える生徒への手立てにはたくさんの可能性を感じており、もっと効果的な導入段階・発想構想段階での手立てを検討していきたい。

	「bookカバーのデザイン」		
	函館市立港中学校 3年 / 指導者 濱地 文恵		
	夢	つくる	人
	◎		

1 題材について

- ・この題材では、T書店という実際にある書店をイメージして、bookカバーをデザインする。
- ・制作したカバーをどんな本に付けたいか考えさせ、カバーの紙のサイズを文庫用と新書用の2種類から選択させた。
- ・T書店の協力が得られ作品を書店内に展示するので、書店のイメージも大切にしながら、道具や材料に幅をもうけ自分なりの表現を工夫させた。

2 題材の目標

T書店が函館に出来た背景を理解し、そのイメージに合うデザインを工夫させる。また、bookカバーのデザインの特性を理解し、使用目的に合ったデザインの構想を練り、絵の具やその他の材料の特性を生かし、よりよいデザインにするために考察を重ね、3年生として完成度の高い作品を制作させる。

3 指導計画

○育みたい資質や能力

- (関) デザインの目的や機能に関心を持ち、自分の価値意識をもって主体的に学習に取り組もうとする姿勢
- (想) デザインの機能や構造を理解するとともに、独創性をもって豊かに発想し、イメージと目的を結びつけ構想を練る力
- (技) 表現意図に合う表現方法を創意工夫したり、制作の順序などを総合的に考える力。
- (鑑) 作品のテーマに対する意図と工夫を感じ取り、生活を豊かにする美術の働きについて理解や見方を深める力。

時数	学習活動・内容	評価規準		
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能 鑑賞の能力
1	◎様々な書店で使用されているbookカバーを観察し、その機能や構造を理解し、アイデアスケッチをする。	・bookカバーの機能や構造に関心をもとうとする。 ・どんな本を包みたいか自分なりに考えようとする。	・bookカバーのアイデアを考えている。	
2	◎T書店が函館にできた背景を知り、T書店をイメージしたbookカバーのデザインを考える。 ○アイデアスケッチをする。	・T書店のことでbookカバーのデザインを考えようとする。	・自分のアイデアとT書店のイメージを結びつけ、bookカバーのアイデアを考えている。	・アイデアスケッチをしている。

3	<p>◎作品のテーマとカバーのサイズを決め、ワークシートに記入する。</p> <p>■ワークシートを使い、班で作品の交流をする。</p> <p>◎班のメンバーのアドバイスも参考にしながら下絵を考える。</p>	<p>・作品のテーマを考え、デザインに合うサイズを選択しようとする。</p> <p>・友達の作品の改善点を見つけ、アドバイスをしようとしている。</p>	<p>・アイディアスケッチと友達のアドバイスを参考に下絵を考えている。</p>		<p>・テーマにそうように改善点をとらえている。</p>
4・5	<p>○実際のカバーのサイズを確認し、全体の構図を決める。</p> <p>○下絵を描く。</p>	<p>・構図を確認しようとしている。</p> <p>・集中して作業しようとしている。</p>	<p>・カバーの構造を確認し、デザインの位置を考えている。</p>	<p>・薄く丁寧に下絵を描いている。</p>	
6～9	<p>○ポスターカラーなどで彩色する。</p> <p>◎材料を工夫して作品に生かす。</p> <p>○作品のテーマや見所などをまとめる。</p>	<p>・丁寧に彩色しようとしている。</p> <p>・作品にあうように材料を工夫しようとしている。</p> <p>・作品のテーマや見所などをまとめようとしている。</p>		<p>・丁寧に彩色している。</p> <p>・色鉛筆やパステルなどの画材を使ったり、コラージュをする。</p>	<p>・自分の作品を客観的にとらえている。</p>

4 実践の視点と経過

現在は作品用の用紙に下絵を描いており、book カバーの構造を考え、絵がどの位置にくれば見栄えがいいのかよく考えて制作している。内側に折り曲げられる部分にイラストを入れたり、カバーに葉を付けるなどの工夫が見られる。用紙は表と裏で質感が異なるため、各自自分の表現に合う方を選択して使用している。

5 今後の課題とまとめ

本研究の「素直な造形～子どもの気持ち」の視点に関わって、生徒の自由な発想を大切にしつつ、book カバーの構造を生かしたデザインを制作することを重視して授業を行った。また、道具や材料に幅をもうけ様々な材料を準備することで、生徒が工夫しながら自分の表現にあう方法を選択できるようにした。

今回の実践では、2年生のときに行ったパッケージデザイン制作で学んだ目的にあわせてデザインを考えることを発展させた。ただ展示するのではなく、使用することも考え、書店のイメージも大切にして、より完成度の高い作品を作るという意識のもと制作を行っている。課題としては、彩色の段階で自分のイメージをどれくらい作品に反映して表現できるかである。

【 小学校提言 分科会：A-2 素直な造形 ～ 子どもの気持ち 】



「墨から感じる形や色」

旭川市立神居東小学校 6年 / 指導者 栗林 友恵

夢	つくる	人
◎	○	

1 題材について

- ・本題材では、黒一色の墨を、水の分量や使う道具を工夫することで、幅広い色で表したり、形やリズムに特徴を出して表したりすることができる。墨汁そのものは単色であるが、水の加減により様々な色合いを感じさせる。また、筆の動かし方によって、かすれたり、にじんだりといった様々な表情を感じ取らせたい。
- ・子ども達が様々な方法を試しながら、自分の感覚や活動を通して形や色などの造形的な特徴をとらえ、活動を展開していけるように本題材を構成した。これは、本分科会のテーマである「子どもの気持ち、夢に沿った造形教育とはどのようなものかを発想・構想・表現・鑑賞などから多面的に考える。」に即していると考ええる。
- ・墨による表現のよさや美しさを友人と語り合い、創造的に学習を深めさせていく。

2 題材の目標

墨と水のできる形や色を試したり、特徴を生かしたりしながら、心地よい調和やリズム感のある絵に表す。

3 指導計画

○育みたい資質や能力	
(関) 墨と水のできる形や色に興味をもち、絵に表すことに取り組もうとする姿勢	
(想) 墨の色の濃淡や様子を試しながら、心地よい調和やリズム感のある絵を考える力	
(技) 筆や用具を活用しながら表し方を工夫しようとする力	
(鑑) 自分や友人の作品や作家の作品を見合ったり話し合ったりして、墨の美しさや表し方のよさ、面白さをとらえる力	

時数	学習活動・内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1・2	◎墨絵遊び ・リズム、色を変えて様々な描き方をしたり、多様な道具で書くことを試したりして、墨絵を楽しむ。 (筆・スポンジ・ロープ、たわし、スポイトなど) ■活動の中で見つけた技法を発表したり、よさを見つけ合ったりする。	・積極的に様々な描き方を試そうとしたり、様々な種類の道具を使おうとしたりしている。 ・よい技法をまねしようとしている。		・墨で様々な描き方をして生まれたい形や色を楽しみ、自分なりの技法を発見して絵に表している。	・友人の描き方を見て、学んだ技法を合ったりして見ている。
3・4	◎絵に表す ・表したい技法に合った紙を選び、自分なりにとらえた楽しさやリズムを組み合わせて、絵に表す。 (相互鑑賞) ■友人の作品を見て、よさをカードに記入し、プレゼントする。	・考えた技法を積極的に使おうとしている。	・試したことを生かして、心地よい調和やリズム感のある絵を考えている。 ・自分の作品にあった作品名を付ける。	・試した技法や紙の大きさを生かして、絵に表している。	・自分の作品の意図やよさを振り返る。 ・友人の作品を見て、すてきなところや工夫しているところなど、気付いたことをカードに書き、伝え合う。

4 実践の視点と経過

<導入時>

本学級の子どもたちにとって、墨を使い和紙に直接絵を描くことは、初めての経験であった。本学級の子ども達の多くは、「上手に描きたい。」「きれいにまとめたい。」と強く感じている。そのため、本題材を通して、「リズムに乗って筆を動かす楽しさ」や「偶然できる色や形の面白さ」を感じさせたいと考えた。遊んだり試したりしながら描くことは、発想を広げていくために大切である。様々なリズムや濃淡で描いた物(複数)を見せると、「おお〜。」と意欲的な声が聞こえてきた。使う道具を紹介し、「どうやったらできるかな。みんなも、技や墨でできる色を探して遊んでみよう。」と投げかけ、墨絵遊びを行った。

- 子どもの気持ちに即して…
- ①墨汁を入れた皿と水を入れた容器を用意し、濃さを試せるようにした。
 - ②発想を喚起するような道具を用意した。また、子どもが使ってみたく考えたものは、何でも使ってよいことにした。
 - ③小さな紙をたくさん用意した。手軽に描いて、何枚使ってもよいことにした。
 - ④子ども一人一人に絵のよさを伝え、子どもが考えた技法の価値付けを行った。(発想に自信をもたせるため。)
 - ⑤友人の描いた絵のよさを見つけ合わせた。



<展開時>

導入時で行った墨絵遊びの作品を並べ、見つけた技法の確認をした。これらを組み合わせたり、描きながら新たな発想を広げたりして、1枚の絵を完成させていく。子ども達が発想を広げやすいよう、様々な大きさの紙を用意した。子どもは、刷毛や筆を思いのままに動かしたり、スポンジによるスタンプやスポイトを使ったにじみなどを楽しんだりしていた。また、楽しんでいる声や、発見したことのつぶやきなどに共感するように努めた。

- 発想を促すために…
- ①活動の進まない子どもには、一緒に活動し、道具を勧めたりしながら具体的な方法を見付け出した。
 - ②墨の濃淡や余白に目を向け、子どもと表現の意図などについて対話を行った。
 - ③子どものつぶやきから、工夫点などを見付け出し、指導と評価に生かした。
 - ④作品名を考えさせた。また、作品の意図も同時に記入させた。



対話とカードによる鑑賞会を設定した。4～5人の班で鑑賞会を行った後、全体で自由に鑑賞させた。「おほめ券」というカードに友人の作品のよさを書き、交換する活動を行った。

- 認め合う鑑賞会に…
- ①班での鑑賞会では、「質問」「ほめる」「拍手」などの役割を分担し、肯定的な話し合いができるようにした。
 - ②多くの友人と「おほめ券」を交換することで、自分の作品のよさに気付いたり、自信をもたせたりすることができるようにした。

5 今後の課題とまとめ

本研究の「素直な造形 子どもの気持ち」の視点に関わって自由な発想を重視して授業を構築した。ともすれば、教師の指導は、「上手な作品を作らせよう」というものに向かってしまうことがある。しかし、それは「教師が作らせたい作品」であって、「子どもが作りたい作品」ではない場合がある。子どもが発想したことを受け止め、認め、様々に試させることで、子ども達が自信をもったり、楽しんで作ったりすることを心掛けた。子ども達からは、「こんな形ができた!」「見て。今までで1番うまくいったよ。」などのうれしそうな声が多数あがった。

今回の実践では、「上手に描こう」という型にはめた子どもの考えを「自分なりに発想しよう」というものに、少しずつ切り替えられたように思う。しかし、中には「失敗したらどうしよう」と心配しながら活動する気持ちも残っている。今後も、子どもに自信をもたせ、進んで作ろうとする気持ちを育てていきたい。

【 小学校提言 分科会：B-1 育む造形 ～ 学びの気持ち 】

	「ビッグネームカード」		
	函館市立中の沢小学校 5年 / 指導者 松田 恭子		
	夢	つくる	人
		◎	○

1 題材について

- これは、自分の名前の文字を切り抜き、穴のあいた部分に色紙をはることで文字が着飾ったように見えるネームカード（名刺）づくりを行う題材である。文字の周りに自分の好きな物をつくってはるなど、装飾を楽しむこともできる。
- 子どもたちは、自分の「名前の由来」を調べたり、「好きな物事は何か」ふり返ることから活動を始めた。そして、色紙を思い思いの形に切り取り、組み合わせ方を考えて自分が好きな物をつくってはりながら表現活動を進めていった。
- 切り抜く前の文字を墨と筆（毛筆）で書いたり、カッターナイフを使って切り抜いたり、扱う用具を工夫し、子どもが、図画工作科においてそれぞれの用具を使うことの良いところを実感できる場を設けた。

2 題材の目標

切り抜いた名前に色紙で模様をつけたり、自分の名前に関係の深い物事や好きな物を発想し、想像力を働かせながらつくってはったりする活動の楽しさや面白さを味わうことができるようにする。

3 指導計画

○育みたい資質や能力 (関) つくりたいものに対する思いをもち、色や形の組み合わせを考えながらつくろうとする姿勢 (想) 自分の名前のイメージや好きな物事などからつくりたいものを発想する力 (技) 色や形の組み合わせ方など、表現方法を工夫しながら自分の思いに合ったネームカードをつくる力 (鑑) 表現方法を交流しながら互いの意図や特徴などをとらえ、それらを自分の表現に生かそうとする力				
	学習活動・内容	評価 規 準		
時数 8	■言語活動 ◎共通事項関連	関心・意欲・ 態度	発想や構想の 能力	創造的な技能 鑑賞の能力
1	○参考作品を鑑賞する。 ○「自分発見カード」をかく。 ・自分の「名前の由来」を調べたり、「好きな物事」をふり返ったりしながら、「自分発見カード」にまとめる。	・提示された参考作品を見て、題材に対する興味をもとうとする。	・「自分発見カード」をかきながら、ネームカードに対する思いをひろげようとする。	
2・3	○名前を書いて、切り抜く。 ・墨と筆を使って半紙に自分の名前を書き、白画用紙に転写して切り抜く。	・自分の名前を毛筆で書いたり、カッターナイフで切り抜いたりする活動を通して、ネームカードに対する興味をひろげようとする。		・カッターナイフを適切に使い、毛筆で書いた文字のよさを生かしながら名前を切り抜くことができる。

4	<p>○名前に色紙をはる。</p> <p>・台紙になる色画用紙の上に名前を切り抜いた紙を置き、文字に色がついたように色紙をはっていく。</p> <p>◎表現活動に対するイメージをもち、形や色の組み合わせを考えながらつくる。</p>	<p>・自分のイメージに合ったネームカードをつくり出す活動を楽しもつとしている。</p>	<p>・ネームカードを楽しく飾ることのできる模様や物を想像しながらつくっている。</p>	<p>・自分の思いに合った色紙を選び、形や色の組み合わせを考えながらネームカードをつくることができる。</p>	<p>・色紙の組み合わせ方など、表現方法について交流しながらつくっている。</p>
5~7	<p>○好きな物をつくってはる。</p> <p>・名前の周りに、自分の好きな物を色紙でつくりながらはっていく。</p> <p>■ 互いの表現のよさに気付き、自分の表現活動に生かすことができるように交流しながらつくる。</p>				
8	<p>○ネームカードを見せ合う。</p> <p>・自分の表現活動をふり返ったり、友達のネームカードを見たりすることで、互いの表現の楽しさや面白さを感じ取る。</p> <p>■ 表現方法の工夫について、語り合いながら鑑賞する。</p>				<p>・表現方法の工夫について交流することで、互いの作品の楽しさや面白さを見つけている。</p>

4 実践の視点と経過

- ・ 題材に対する思いをふくらませることができるように、名前の由来を調べたり、自分の好きな物事をふり返ったりしながら、「自分発見カード」にまとめる場を設けた。
- ・ カッターナイフを使う場面では、安全に配慮し、扱い方に慣れることができるよう助言した。
- ・ 発想をひろげていくことができるように、一人一人の子どもたちの表現活動を共感的に受け止め、必要に応じて材料や用具を準備したり、表現方法について助言したりした。
- ・ 思うように発想をひろげることができなかつたり、活動が停滞したりする子どもには、色や形の組み合わせ方や用具の扱い方について助言したり、活動の手がかりを見いだすことができるよう友達と語り合いながらつくることを促したりした。

5 今後の課題とまとめ

- ・ 本題材は、ある程度手順を決めて行うことで、子どもが表現活動を行いやすい内容となった。
- ・ 特技、趣味、好きな○○、生まれた季節など、自分自身をふり返って「自分発見カード」をかくことは、表現活動における手だてとして活用することができ、有効な手段となった。また、自分の名前の由来を調べることで、親子のコミュニケーションにもつなげることができた。
- ・ 図画工作科における言語活動として、子どもの思いをどう引き出すのか考えさせられる題材となった。子どもが、自分の言葉で思いを語るができるようにするためには、教師の語りかけが大切である。今後も、友達や先生と思いを伝え合う活動を多くの場面で取り入れることで、一人一人の子どもが、自分の表現活動に自信をもって取り組んでいくことができるようにしたい。
- ・ 学級の人数が多く、十分な活動場所を確保することができず、子どもたちの表現活動がしづらい状況になってしまった。安全で伸び伸びとした活動ができるような場所を設定すべきであった。

	「色の列車をつくろう」～美術専科ができること～		
	北斗市立上磯中学校 1年 / 提言者 齊藤悦子		
	夢	つくる	人
		◎	○

1 題材について

題材名「色の列車をつくろう」 (1年)

- ・この題材では、色の三要素をはじめとする色彩の基本的性質について理解させながら絵の具での着色が活動の主となる。
- ・道具の使い方、色の作り方を示すことで、制作過程でモチベーションを下げずに取り組めるようにした。
- ・後片づけ後の時間差や早く終わった場合に備え、「自分の顔」「レタリング」も「色の学習」の画用紙に取り入れた。

2 題材の目標 色の性質や配色についての知識を学び、絵の具の特性に触れながら、道具を適切にあつかい、美しく着色させる。

3 指導計画

○育みたい資質や能力

(関) 身の周りの色に興味をもち、色の性質や感情を理解しようとする。

(技) 色の作り方を身に付け、制作の順序などを考え、見通しを持ちながら表現する。

(鑑) 友だちの作品の良さや美しさに気づき、個の作品から集団の作品の良さを感じ取り見方を広げる。

時数	学習活動・内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
5					
1	○色の三要素を知る。 ・色彩の基本的性質について理解する。 ◎色を発想する。	・色のおもしろさを味わおうとする。			
2～4	◎着色をする ・道具のあつかい方を確認する。 ■色の作り方について友だちの互いの意見を聞き合う。(言) ・できあがりを見てもらう。	・色の三要素を完成させようとする。 ・友だちの色の作り方に興味・関心をもっている。		・色を無駄なく作るために道具をあつかい方に留意して表している。	

5	○鑑賞する。 ・他の作品から色づくりや着色の美しさを感じ取る。 ◎色彩の特徴	・自分や友だちの作品の美しさに関心をもって見たり、話したりしている。		・個の作品から集団の作品の良さを感じ取り見方を広げている。
---	--	------------------------------------	--	-------------------------------

1年 組 番

①

名前

+

+

+

+

+

+

②



重い感じ

軽い感じ

暖かい感じ

寒い感じ

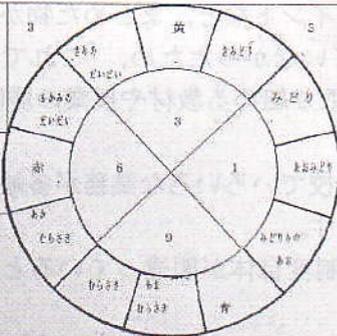
A

B

C

D

③



色の学習

①は、レタリングの練習後
自分の名前を明朝体でかく。

②は、点線の円の大きさをめやすに、身分証明書を見ながら自分の顔を描く。

③は、下の部分は色のためしぬりに使用し、最後にカットする。

展示の時は、列車のように学級の仲間の作品を後ろにはってつなげていく。

4 実践の視点と経過

「平成21年度全国中学校美術連盟 全国公立中学校美術科教員配置状況調査 集計」において、北海道全学校数657校の内、専任教諭配置校は、192校で28.9%であった。未配置校は、75校で11.4%であった。配置状況不明校は、390校であった。

「中学校美術ネット」によると、全国的に美術の授業時間数の減少に伴って、美術科教員が各校一人配置、複数教科の兼務など美術科教員が減少しており、地域の研究会も衰退するなど、様々な問題が各地域で増加・深刻化し、美術科教員は孤立し、美術の授業改善のための時間と機会が確実に減ってきている。また、約20年間で美術科教員数は2/3にまで減少。教科別にみても美術科が一番教員数が減少している。美術科教員の年齢構成は、45歳前後を境目に急激に教員が減少、美術が一番若い先生が少ない教科であり、一番平均年齢が高い教科と報告されている。

実際、函館・渡島の2015年度の中学校美術科教員配置状況を調べてみると、専任教諭配置校は、函館市で27校の内14校で51%である。渡島は、22校の内9校で40%である。渡島の西地区の4町で、専任教諭が0%である。渡島北地区で中学校が5校あるが、専任教諭いる中学校は1校で、初任者である。

専任教諭が配置されていない学校は、非常勤講師を迎えることができれば幸運な方である。ほとんどが他教科の教員が兼務している。専任教諭が地域に、または近くの中学校にいればいろんな事を相談したりできるであろう。しかし、函館・渡島でも難しい状況にあるのが現状である。実際、新採用の美術科教員がほとんどおらず、美術科教員の年齢構成は、45歳前後を境目に急激に教員が減少しているのは、函館・渡島も同じである。

専任教諭がない渡島の中学校に以下のアンケートをとった。

●「初めて美術科を担当した時、困ったものは何か」

- ①年間指導計画など委員会への提出書類 ②教材の内容 ③教材の準備・購買
④各教材のアイディアプリント ⑤教科書の利用 ⑥毎時間の授業の進め方
⑦作品へのアドバイス ⑧作品の評価 ⑨鑑賞授業 ⑩テスト作成 ⑪4観点の評価
困ったという解答が多かったのは、③・④・⑦・⑧・⑨・⑩・⑪であった。

●「①～⑪の内容について今までどのようにしてきましたか。」

知り合いの美術科に頼んだ人が少数。ほとんどが前任者からの引継であるが、その前任者も専任教諭ではなくなっている。そして、全員が独学であると答えた。

●「美術科専科に聞いてみたい事や、資料でほしいもの、教材の進め方、作品の制作手順など協力してほしいことはありますか。」

- ・作品の制作手順や作品の評価する時の観点のポイントなど、まとめた物があれば助かると思う。
- ・以前の担当者が美術としての取り組みがされていなかったため、「これでいいや」という気持ちでなかなか作業ができません。生徒が夢中になって取り組める教材や授業の展開の工夫を知りたい。また、鑑賞の授業も困っています。
- ・負担です。美術は好きですが、小さい規模の学校でいろいろな業務が多岐にわたっている。専任教諭の増加を道教委へ提示して下さると有り難いです。
- ・「専任の教諭以外に教科を任せられる」という制度自体が間違っていると思うので、その辺を提言してほしい。
- ・どんな授業をされているのか、テスト作成や評価などについて聞いてみたい。数年やっているのになんとなく流れはつかめましたが、自信をもってやれている訳ではない。もっと子どもに色々な事を教えてあげられたらと思っています。

今後、函館・渡島で専任教諭が大幅に増加することは期待できないと思われる。今ある美術研究会が専任教諭が、美術科を兼務している先生方に資料提供する場を大きく発信することで、地域を越えて繋がり学び合い、そしてそれがさらに子どもたちのよりよい学びへと繋がっていくと考える。自分の経験から専任教諭がない学校の先生方の悩みや困っていることを考え、美術科専任教諭としてお手伝いできることを実践してみようと思った。

この春、同僚の音楽科の教諭が小規模の中学校に赴任され、美術科を全学年受け持つこととなり、私が、授業づくりを協力させてもらえることとなった。本人がすぐほしいものは、1学期各学年、何を教え、どんな手順でものづくりをするのかという実践内容であった。4月から授業が始まるので、春休み中に、教材の準備・購買、各教材のアイディアプリント、教科書の利用、4月～5月くらいまでの授業の進め方をレクチャーした。6月には、作品へのアドバイス・作品の評価・鑑賞授業の資料・テスト

作成・4観点の評価などを話し合った。生徒の作品も途中見させていただいた。その先生は、授業をする前に自分で練習していた。その努力のかいあって、生徒へのアドバイスも自信を持って行うことができたようである。また、今年度より本格的な美術の授業を受けて、生徒も生き生きと授業を受けていると聞いた。1学期のめどもたち、一安心している様子が伺える。今回はこの夏休み中に2学期の打合せを持つことになっている。

5 今後の課題とまとめ

本研究の「育む造形 学びの気持ち」の視点に関わって、初めて美術科を受け持つ先生が「これならやれそう」と思えることを重視して授業を構築し提案した。しかし、学校により用意できる道具や材料がなかったり予算の関係や生徒の特質も考えて教材を用意しなければならないこともわかった。新学期が始まる前に、相談ののったり準備を整える助言の必要性を感じた。また、アンケートに協力してくれた先生方で、協力要請のあった学校にも同じように関わっていきたいと考えている。

美術研究会としては、困っている先生方が最も近くにいる専任教諭に相談できたり美術研究会が行われる日程の案内などを配布して作品交流やアドバイスの機会を設けるなどしていきたい。生きた授業をするためには、やはり指導者が直接見たり聞いたりすることが一番伝わるはずである。

専任教諭が増えないことに嘆いているよりは、私たちが持っている資料やアイデアをどんどん渡し、協力することで、生徒が美術の授業を楽しみにしてくれたり、つくる喜びを味わえたら最高だと思う。

単 元 面 報					
伝達の資源	対象の指導	懸念・課題 代案	留意・心開 実態	内容・経過等	感想
		総合学習 の学習	総合学習 の学習	総合学習 の学習	総合学習 の学習
この品目の の学習	この品目の の学習	この品目の の学習	この品目の の学習	この品目の の学習	この品目の の学習
品目の の学習	品目の の学習	品目の の学習	品目の の学習	品目の の学習	品目の の学習

	「母校の歴史に名を刻め」のその後		
	函館市立深堀中学校 3年 / 指導者 櫻井 純		
	夢	つくる	人
		○	◎

1 題材について

- ・開校 50 周年記念のモニュメントを制作するにあたり,形や設置場所などを生徒自身が考えることにより知的好奇心を刺激し,学校とのつながりをより強くもたせた。
- ・校地内の既存のモニュメントを提示し,言葉から形を,または形からイメージを発想しながら心の動きをサポートした。
- ・条件に応じた作品を作るために,コンセプトやイメージを明確にしながらかし合いや制作を行うようにした。させる。
- ・自分たちの制作意図を生徒や教師に視覚的に伝え合うことで,知性を働かせながら感性を刺激する。

- ### 2 題材の目標
- 記念モニュメントのコンセプトやイメージを明確に形にし, 周囲に伝えるために表現方法を工夫させたり, 言語活動を活発に行わせる。

3 指導計画

○育みたい資質や能力					
(関) テーマに基づいた表現の多様性に気づかせ,学校とのつながりをより意識して授業に取り組もうとする姿勢					
(想) 言葉の持つイメージや,形から感じとるテーマなどを豊かに発想・構想する力					
(技) 自分のイメージを具体的に形にすることが出来る創造的な技能					
(鑑) 自分の制作意図を伝え合うためのコミュニケーション能力を高め,自他の作品の違いや価値を共感する力					
時数	学習活動・内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
11 (2年時)	○50周年モニュメントを考える。 ○石膏ブロックを使って,エスキースを作る。	テーマに沿って自分のアイデアを形にしようとする。	テーマに合った形を考えている。	道具や素材を生かして,創造性豊かに表現している。	自他の作品について,その良さを見つけている。
6 (3年時)	○設置場所などの環境計画を立てる。 ◎グループで模型等を制作する。 ■それぞれの計画を発表し, 交流し合う。	言語活動等を取り入れて,積極的に制作意図を伝えようとしている。	条件に応じた作品を構想し,よりわかりやすく伝えるように考えている。	班員で協力し,テーマに応じて表現しようとしている。	客観的に作品を選び,その良さを見つけている。

4 実践の視点と経過

当時勤務していた学校で開校 50 周年記念行事があったため、最高学年として 50 周年を迎える当時の 2 年生に、母校が刻んで来た歴史を祝福する意識をより高め、一人ひとりが 50 周年行事に関わったという気持ちを持たせたいと思い、美術の授業の中で取り組めるものはないか考えた。グラウンド周辺には過去の卒業生の卒業記念モニュメントがあり、モニュメントは日常生活の中にとけ込んだ風景の一つであったため、新たに 50 周年記念のためのモニュメントを考えるということは、生徒にとってもそれほど違和感がないと思い、題材として取り上げた。

モニュメント制作を行うことに対する関心はとても高く、どの生徒も意欲的に取り組んでいた。石膏ブロックを使い、モニュメントの形を考え、個人でエスキースを制作する授業を行った。

その後、本格的に予算がつき、実際にモニュメントを建設することが可能となったため、2 年時に作ったモニュメントエスキースを、校地内のどこにどのように設置するかをグループで考え、プレゼンするという授業を 3 年時に行い、第 60 回全道造形教育研究大会でその様子を公開した。

この実践では、設置環境計画をグループで考え発表するという授業であったため、互いの意見を交流させなければ活動が進められず、考えを深めるために周りからの言葉をどうやって解釈し、自分はどうのように考えるのかを伝えることが出来るコミュニケーション能力を高める必要性があった。その中で、お互いが意見を出し合って交流することで教師からのアドバイスだけでは深めることが出来なかったアイデアや発想を深め、自分自身の作品を振り返ることが出来るような能力を身につけることが出来たように感じる。

更に、いかに自分たちの設置計画の良さを最大限に伝える事が出来るかを工夫するため、モニュメントの模型を制作したり、OHP やプロジェクターを使って視覚的に訴えるなど、既習事項をしっかりと生かしてプレゼンできた班が多く、1 年時からの積み重ね、または各教科での学習とのつながりなどを感じる事が出来た。

2 年時の個人でのモニュメントエスキース制作で終わるのではなく、その後モニュメント設置の条件などを考え、各班でモニュメントを設置する意義などを話し合うことにより、より母校への愛着を感じた。これからの後輩や地域にも自分たちの思いをつなげていくことを考えることができたように思う。更には、モニュメント設置に関しては、予算の関係から業者に依頼することは難しく、生徒と提言者自身によって制作することとなり、大変な面も多かったが、より「自分たちの手によって作り上げたモニュメント」という思いが強くなった。また、設置に際して、PTA が協力してくれることとなり、台座や設置工事を負担していただいた。設置工事には、その工務店に働いていた卒業生が担当し、モニュメントを中心として生徒、保護者、卒業生、そしてこれからの入学生と、つながり、ひろがりを作る授業が出来たと感じている。

5 今後の課題とまとめ

本来、2 年時のモニュメントの具体的な形を個人で考え制作する授業で終了するつもりであったが、思いがけずモニュメント建設の話が現実化したため、二カ年計画の授業展開となった。そのため、個人からグループ、そして全校、その後続く後輩、地域と広がっていくことを考え、3 年時の授業を構築した。

課題としては、言語活動の難しさと大切さをどこまで生徒一人一人に考えさせることが出来たかという点と、評価の点である。プレゼンは活発に行われたが、話し合いとしての質を高めることは出来なかった。言語活動によって、みんなで作品を作り上げていくための教師の働きかけが不十分であったと感じている。

また、評価に関しては、グループ学習の難しいところであり、自己評価などから判断することが多いが、それでどこまで一人一人の深まりを拾うことが出来たかは、今後も考えていきたい部分である。



	「表現にこめた思い」		
	札幌市立本郷小学校 6年 / 指導者 中川 治		
	夢	つくる	人
			◎

1 題材について

本題材は、ピカソの『ゲルニカ』を鑑賞し、その作品に込められた思いやメッセージを読み取り、作者の表現の意図を知る題材である。

その後、ピカソの『ゲルニカ』での学習を生かし、修学旅行先の向陽館で高橋要の作品を鑑賞する。『ゲルニカ』での鑑賞から、自分なりの作品の見方を持ち、高橋要の作品を深く鑑賞し、友だちと交流し合うことで、美術館の世界観や作家の芸術と向き合う生き方に思いをもっていくのである。

2 題材の目標 作品の形や色、大きさなどから、美術作品に込められた思いやメッセージを読み取り、作者の表現の意図を知り、美術作品に対する鑑賞を楽しませる。

3 指導計画

○育みたい資質や能力					
(関) 美術作品をよく見て、形や色、表されている内容などを味わおうとする姿勢					
(想) 作品の形や色からイメージを膨らませ、作品の物語を考える力					
(鑑) 美術作品に込められた、作者の表現の意図や特徴などを感じ取る力					
時数	学習活動・内容	評価規準			
		関心・意欲・ 態度	発想や構想の 能力	創造的 な技能	鑑賞の能力
1 教室	○ピカソの『ゲルニカ』を鑑賞しよう。 ・作品に使われている色、描かれているものは何かを見つける。 ・作品から感じるイメージを交流する。 ・作品の物語を3場面に分けて想像する。 ・物語を交流し、作品の世界観を深める。 ・作品に込められた思いを読み取り、表現の意図を知る。	・ゲルニカを意欲的に鑑賞しようとしている。	・ゲルニカから想像する物語を発想しようとしている。		・ゲルニカで使われている色や描かれている形から、作品のイメージを広げ、作品を味わおうとしている。
2 美術館	○高橋要の作品を鑑賞しよう。 ・お気に入りの作品をデジカメに撮る。 ・お気に入りの作品から物語を3場面に分けて想像する。	・美術館の作品を鑑賞し、お気に入りの作品を見つけようとしている。	・お気に入りの作品から物語を発想しようとしている。		・お気に入りの作品に使われている色や描かれている形から、作品や美術館のイメージを広げようとしている。
3 教室	・作品の物語を交流し、美術館の世界観を深める。 ・作品や美術館に込められた思いを読み取り、表現の意図を知り、高橋要の生き方に思いをもつ。				

4 実践の視点と経過

本郷小学校では、修学旅行で旭川方面に向かう。深川に廃校になった向陽小学校の校舎がある。その校舎を画家の高橋要が美術館兼アトリエとして活用している。想像の海をテーマに作品を制作し続け、館内は高橋要の作品で彩られている。体育館には超大作もあり、見る人の心を打つのである。昨年度までは、修学旅行のコースには入っていなかったものを、今年度新たに加え、子どもたちに鑑賞の機会を設けた。しかし、ただ美術館に行き作品を見るだけでは、深まりがない。学習として位置付け、題材を計画的に進めていくのである。



題材は日本文教出版の教科書にもある『表現にこめた思い』である。作品を鑑賞し、作品に込められた作家の意図などを感じ取る授業である。学習で取り上げた作品は教科書にも掲載されているピカソの『ゲルニカ』である。ゲルニカは有名な作品であり、子どもたちの中でも作品を見たことがあったり、その背景を知っていたりする子がいる。

題材の導入で子どもたちの興味関心を引くために、4分の1サイズのレプリカを用意する。子どもたちはレプリカとはいえそのサイズの迫力に目を奪われる。すぐに「気持ち悪い。」「よくわかんない。」といった声が上がった。そこで、子どもたちに「この絵の中で使われている色は何かな。」「描かれているものは何かな。」と問う。子どもたちからは、「黒、灰色、白。」「変な人がいる。」「よくわからないけど馬かな。」「ナイフもあるし、花もある。」「窓みたいなのがあって、あれ？これって室内？」とどンドンと作品に描かれているものを見つけていく。そして、作品の世界を考え始めるのである。作品を知っている子は、戦争をモチーフにしたために、このような表現にいたったことに気付く。しかし、それでは作品に対する思いが深まらない。そこで、「この作品の物語を考えよう。」と問いかけるのである。場面を3つに分け、どのような展開になるのかを考えていく。ある子は、「パーティーの最中に動物に襲われた。」というものや「なぞの男が訪問し、その家に不幸をもたらした。」など描かれているものをヒントに物語を想像していくのである。



物語について交流することで、この作品が惨劇や不幸を表していることに確信をもっていく。白黒で描かれていること、ものの形がおかしいこと、この作品が描かれた背景には戦争があったことなどを知ることで、ピカソがゲルニカを描いた意図と自分の物語を重ね合わせるのである。

そして、形や色から物語を想像し、ピカソの意図を知ることで、高橋要の作品も鑑賞してみたいという思いにつながっていく。

5 今後の課題とまとめ

本研究の「ひろがる造形～つながる気持ち」の視点に関わって、作家、美術館とのひろがり・つながりを重視して授業を構築した。ピカソから高橋要へ、教室から美術館へ、美術作品から自分の生き方へとひろがり、つながるのである。

今題材でピカソのレプリカは大谷大学からお借りしたものである。札幌市では、大谷大学からレプリカをお借りし、授業を行うことができる。しかし、まだ十分な活用には至っていない。また、高橋要の向陽館は北海道を代表する美術館であるといっても過言ではない。そのような美術館を十分に学習をつなげていくことが、今後の課題である。



【 幼稚園提言 分科会：A-3 素直な造形 ～ 子どもの気持ち 】

	「つくる・かかわる・ひろがる 楽しさ」		
	北海道教育大学附属函館幼稚園 / 指導者 藤谷 貴代		
	夢	つくる	人
	○		◎

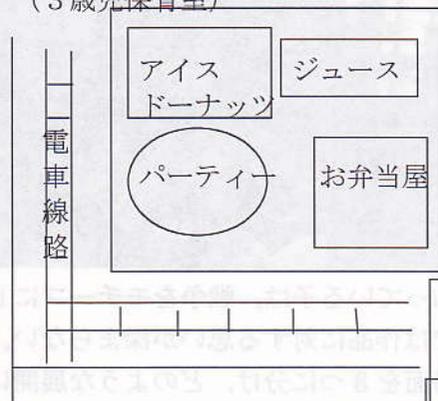
1 はじめに

子どもの「生き生きとした活動」は、体験や経験、環境、人間関係等を基盤とした「感情」により生まれる。本園では「生き生きと活動する子」の育成をめざし、昨年度から幼稚園から小学校へのなめらかな接続をめざしたカリキュラムの作成をすすめている。この中で、幼児の体験から起こる感情や「人と人とのつながり」で育まれる経験が、生き生きとした活動を生み、なめらかな接続に必要な意気込みや成功体験の積み重ねに繋がることがわかった。

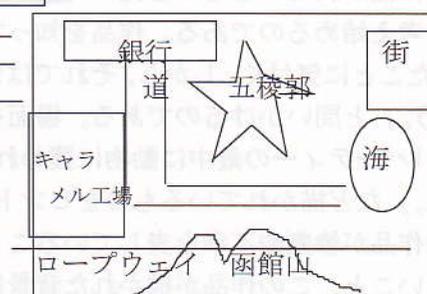
そこで、昨年7月から10月にかけて、3歳児の「色水ジュース遊び」から「パーティーごっこ」や「おみせやさんごっこ」に発展した事例を紹介し、表現領域の活動としてどのような造形体験を重ねたかを報告する。

2 環境構成

(3歳児保育室)



(遊戯室)



*売り子達は電車や徒歩で遊戯室に売りに出かける

3 事例

(1) 同年齢による遊びの広がり「ジュースやさんからパーティーごっこへ」

3歳児は、色への興味や関心をもち、色の美しさを感じ取る遊びとして、色水のジュース作り遊びをした。色水を作ったり、混色の不思議さを体験した。3歳児はお互いにジュースを見せあったり、友だちの真似をすることで、自分もやってみたいと主体的に作る様子がみられた。

やがて、3歳児達はジュースにあう食べ物を作りたいという意欲をもった。作ったジュースに用意してあったコーヒーフィルターを入れると、柔らかな色に染まった。これをアイスに見立てアイス作りが始まった。用意しておいた茶封筒や小包用紙を使って子ども達はチキンやドーナッツを、色紙やお花紙を使って手巻き寿司やおにぎりを作り始めた。また、ジュースの容器にストローをさすことで、リアルさが加わった。

リアルさは子ども達の個々の思いを広げ、友達との交流に繋がり、やがてクラス全体のパーティーごっこへ発展した。教師はパーティーのために、環境を再構成し、積み木や机を準備した。

(2) 異年齢への遊びの広がり「パーティーが移動販売に」

同時刻に、4歳児の保育室では秋の木の実を使ったアクセサリーを、お遊戯室では5歳児が積み木を使って函館の街町を再現していた。

3歳児はできたものを他の部屋に持って行き、様子を眺めながら、お弁当を食べる遊びを始めた。

やがて、異年齢の友だちにも「食べて（みて）もらいたい」気持ちが芽生え、子ども達は箱にドーナツやジュースを詰め、4歳、5歳児に渡しにいった。異年齢の友だちが自分達の思いのこもった作品を受け取ってくれことで、3歳児達は「喜び・楽しさ」「もっと喜んで貰いたい」と感じ、更に運んだり、作ったりする活動を繰り返した。教師は「喜んでもらいたい」という思いを尊重し、運びやすいように専用の箱を用意して、活動を援助した。

遊びが展開すると交流が主になり、造形活動自体は停滞してきた。そこで教師が新たな表現の刺激として、色水に石けん水を加えて振り、ジュースがフロートに変化する活動を見せた。子ども達はこれを取り入れることで、造形活動は再活性化した。また、異年齢の子ども達も興味をもち、造形活動に参加し始めた。

（3）異年齢との協同性の大切さ「みんなでお店屋さん」

食べものを運んでくる様子を見た5歳児は、自発的に3歳児のためにお店のコーナーを作った。すると3歳児だけでなく4、5歳児も順に売り子やお客になった。また5歳児は紙粘土を四角く切りセロファンにくるんだ「キャラメル」を作ってお店を開いていた。5歳児の活動に興味をもった3歳、4歳児は、仲間に入れて貰い一緒に活動した。年齢を超えて関わりをもつことで、5歳児が作った電車ごっこを一緒にしたり、4歳児の松ぼっくりアクセサリーの作り方を教えあう様子もみられた。このように、異年齢の子どもと関わることで、子ども達の発想は広がり、ルールを生み、共同性をもった遊びに変化していった。

4 おわりに

本研究の「素直な造形 子どもの気持ち」の視点に関わって、子ども達の表現を生かした「関わり合い」に着目してきた。子ども達が「人、もの、環境」を介して関わり合い、課題に対して能動的に活動し、経験や体験を積むたびに、子ども達には大きな成長がみられた。

また、教師は活動が停滞した時にタイミングを捉えて、ジュースに泡が出るように材料を加えたり、活動しやすいように箱を用意した。今までの活動よりも魅力的な環境や活動を加えることで、子ども達の興味関心はより喚起され、主体性と発想の広がりを生み出した。「もてなしてあげたい」「だから作りたい」という「他者を喜ばせる気持ち」は、能動的な造形活動、素直な造形につながったのである。

このように、子ども達の夢は、「生き生きとした活動」を繰り返す中で表現されるのである。



【 中学校提言 分科会:C-2 ひろがる造形 ～ つながる気持ち 】

	「Answer Art ～作品の声を聴く～」		
	北海道教育大学附属釧路中学校 3年 / 指導者 更科結希		
	夢	つくる	人
		○	◎

1 題材について

本題材は、鑑賞活動と表現活動を合わせた創造活動の設定と、それを促すための主題の設定場面や主題の表現をするための構想場面に着目し構成している。中学3年生の表現分野の学習において、主題を自ら生み出すことと、自分の意図に合う表現を行う際に、具体的な表現効果について考えていくことが重要となる。これまで、表現活動の題材において鑑賞は創意工夫を広げるために、様々な表現方法があるということに触れるために取り組むことが多かった。そして、表現活動では生徒全員が共通した素材を扱い、生徒が想像した形に近づけていくと行った活動を多く扱ってきた。鑑賞と表現が互いに連動し、生徒が共通した主題のもと個々の主題を生みだし表現していく場面を作ることで、互いが意見を共有しあえる環境をつくり、表現していく作品が生徒にとって、価値ある作品になっていくのではないかと考えた。

本題材は、着想を得るための媒体として、釧路市立美術館所蔵の作品「A tale of the woods(2)」を設定し、その作品の鑑賞活動から感じ取ったことや考えたことを基に、鑑賞作品への返答となる作品を生み出す活動とした。主題を自ら生みだし、主題の実現に向かった構想や創造的な活動を工夫しながら改善し表現していくことは、柔軟に素材を扱えるよう既習事項についての確認や作品の構想を生み出しやすい場面の設定が必要となる。そのため、主題の着想を得る媒体として物語性を感じる共通の鑑賞作品を用意し、鑑賞活動を組み込んだ。そして、素材の持つ意味や効果について授業の場面に随所に取り入れるよう工夫した。

また、本校の生徒の実態として、「鑑賞時に作者が表したいことをどのように工夫して表現しているか意識している」、「鑑賞で作品から感じ取ったよさや美しさなどを言葉で表現することが好きか」といったアンケート項目において課題を抱えており、言語活動を効果的に取り入れた学習を進めるため、構想の場面において効果的な交流場面の設定について重点をおく授業過程とした。

この題材では釧路市立美術館と連携し、鑑賞授業の設定や生徒の完成した作品と鑑賞作品を同時に展示するなど、新たな取り組みについて模索した。

2 題材の目標

鑑賞作品から対象の様子や表現を読み取り、着想を得て、自らが表現したいことを構想し、構成を工夫しながら創造的に表現することができる。

3 指導計画

○育みたい資質や能力

(関) 対象作品から鑑賞したことを基に、イメージを広げ主題を生みだし、主体的に表現の構想を練り、材料の特性を生かして意欲的に表現しようとする姿勢

(発) 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたことから主題を生み出す力。主題から創造的な構成を工夫し、表現の構想を練る力

(技) 自分の表現意図に合う材料の特性を生かし、表現方法を工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら創造的に表現する力

(鑑賞) 対象の形や色、情景などから作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識を持ち鑑賞する力

時数	学習活動・内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	○釧路市立美術館所蔵作品の市成太煌の「A tale of the woods (2)」を鑑賞する。 ■作品を読み解くための視点として対象・色・情景について個人やグループ討議を行う。	・鑑賞作品から感じ取ったことを基に意欲的に自分の考えをまとめることができる。			・形や色彩などの特徴や印象などから、作品の意図や創造的な表現の工夫を感じ取りながら鑑賞することができる。
2	◎作品から読み取ったことをまとめ、作品から強く感じたメッセージや物語の続きを想起しながら、返答作品の着想を考える。		・対象を深く見詰め感じ取ったこと、考えたことをもとに自分にとって印象に残る場面について考えることができる。		
3	○鑑賞時にまとめた考えを元に、鑑賞作品への返答となる表現について構想する。 ・着想を得て、主題を生みだし、アイデアスケッチをする。	・主体的に自分の考えを基に主題を考え、意欲的にアイデアスケッチを行うことができる。	・対象を深く見詰め感じ取ったこと、考えたことなどから主題を生み出すことができる。		
4	○自ら考えた主題を元に、作品の構想を練る。 ・表現したいものをどのような【形態、素材、表現方法】で表していくか考える。 ■他者の批評的な意見を参考にし、自分の考えをより深めていく。	・他者の構想について、より良くするためのアイデアを持ちながら交流することができる。	・主題から創造的な構成を工夫し、表現の構想を他者の意見を基に更に改善していくことができる。		
5 6 7	◎主題や構想を基に、素材や制作計画を改善しながら作品を制作する。 ・20×20×20 cmの中に収まる作品として表現する。 ・色、対象の形や素材に着目しながら、どのような表現効果が最適か常に振り返りながら制作していく。	・意欲的に素材や色彩の表現効果について考えながら制作することができる。	・自分の考えに近づく表現を行うために常に構想を見返しながら制作することができる。	・主題を表現するために、素材の効果を意識し、制作手順を立て、表現方法を模索しながら表すことができる。 ・表現手段が最適か常に振り返りながら表現することができる。	
8	○鑑賞作品と生徒の作品を同時に展示し、鑑賞をする。	・作品から感じ取ったことや考えたことを基に自らの考えを深める活動を行うことができる。			・作者の作品から意味や意図を考え鑑賞することができる。 ・構想段階におけるアイデアと完成作品との関連について目を向け鑑賞することができる。

4 実践の視点と経過

(1) 着想の基になる「A tale of the woods(2)」の鑑賞の時間から

釧路市立美術館所蔵の作品を、施設内のシアタールームに設置し、鑑賞授業を行った。鑑賞作品の選択では、物語性のある作品であることや、色から受け取るイメージや描かれた内容が想像しやすいものであることを念頭においた。(写真1は、全体の場合における対話型鑑賞を行っている場面)

鑑賞の方法は対話を生かし、作品に描かれている内容や作品から受ける印象、作者の想いについて考えを深め、感じ取ったことをまとめていく時間とした。また、個別に考えたことを他者との意見交流を通し、更に深める時間を設けた。また、鑑賞活動を基に着想を得て、作品を生み出す過程があるため、この時間の中で、鑑賞作品から自分がメッセージとして受け取ったことなどを具体的に記述する場面を設けた。



写真1 鑑賞授業の場面

(2) 着想を基に主題を生みだし、他者の批評的な意見を参考に構想を練る

個人の作品の構想場面では、鑑賞から着想を得て主題を生みだし、アイデアスケッチを行い、素材や表現方法について考えた。その際、更に自分の作品をより具現化するための手立てとして、他者による批評的な意見を受け取る場面を設定した。言語を用い交流する際、これまで批評的な視点で他者の作品を観ることは行っていなかった。そのため、作者がどのように表現しようとしているのか、また構想のアイデアスケッチから作品にどのようなねらいがあるのか両面から捉えることに重点をおき、交流する場面を設定した。(写真2は、グループによる他者の構想カードを見合い、批評的に他者の構想について意見を述べている活動の風景) この授業で取り組んだ構想カードは図1にあるように、アイデアスケッチと共にどのような素材を使い表現するかを記した。裏面には、生徒の作品のねらいや構想を文章で表したものを添付している。交流場面では、アイデアスケッチの描かれた面だけを見て、他者はどのような表現を

したいかコメントを記入する。その後、裏面の作者のねらいを文章で読み、受け取ったイメージと異なる印象や素材の扱いについて改善すべ



写真2 交流場面

き意見を、繰り返し書いていくという方法で進めていった。今回の表現では、着想の基となった作品と合同展示を行うことを事前に話しているため、少なからず自分の表現が人に伝わることを念頭においているため、この交流は自らの構想をより良くするためには必要な学習過程であったと判断する。



図1 交流意見を加えた構想カード

(3) 手順や素材を選択し制作する

生徒の表現活動においては、構想の中で素材の持つ効果について考える場面を設定した。材料は生徒によって異なり、表現方法も異なる。そのため、本過程においては最初に制作手順について立案させ、その後表現活動を行った。制作時間は3時間と短いですが、合同展示をする関係もありサイズを指定してその範囲内での作品の表現である。

授業の場面では、個別に対応をしながら時には、素材の変更や実際に扱ってみて失敗した経験を別な方法に転換させる場面などもあり難しい時間ではあるが、ほとんどの生徒が構想の場面において素材の扱いや効果について考えを交流しているため、迷いもなく活動に取り組んでいる場面が見られた。

5 今後の課題とまとめ

本題材は、今年新たに取り組んだ内容だったため、授業構成やそれぞれの過程において改善は必要であった場面もあった。例としてあげれば、作品の大きさや素材の選定場面での交流方法などが挙げられる。

しかし、釧路市立美術館と連携しこうした題材を考える事ができたのは大きな収穫であった。まず、着想を得る場面で使用した鑑賞作品への返答作品というテーマを設定したことから、一般市民に向け作品を発表することができたところにある。

生徒の作品の発表の機会には多くは、校内展示などにとどまる。その効果も大きいですが、中学生が何を考え、つくることができるのかを、多くの人々に知ってもらおうといったことが、生徒に与える影響も大きいものとする。

これからも、様々な関係機関と連携し、地域に発信していく題材を模索し続けていきたいと考えている。



写真3 水墨と絵の具を合わせた表現

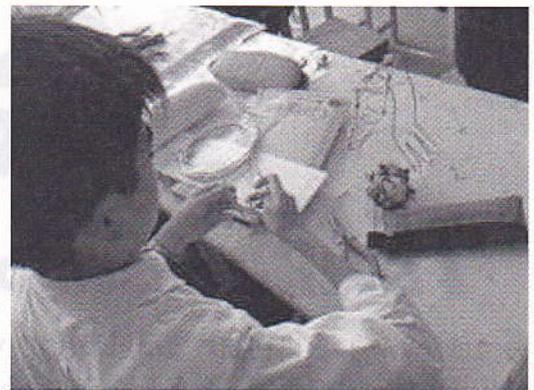


写真4 針金による立体表現



写真5 コラージュによる平面表現

	「チーム北海道を形に～人と人のつながりづくり～」		
	札幌市立あやめ野中学校		発表者 館内 徹
	夢	つくる	人 ◎

1 『ネットワーク部門』の変遷

北海道造形教育連盟の組織の中には『ネットワーク』という部署があります。20年ほど前に私が造形連盟の活動に参加したときには既に、全道造形教育研究大会の日程の中に『ネットワーク会議』という会が設定されていました。(実際には他の分科会会議と平行して設定されていたので人が集まらず、流会していたと記憶しています)私は”研究部のネットワーク担当”という所属がいつのまにかついていたのですが、それがなんなのか知らずにいました。



地区ごとの情報交流の重要性が認識されたのは、学習指導要領の改訂(授業時数の減少なども含む)や全国造形教育研究大会の札幌開催の準備をすすめなければならなくなってきたころからだと思います。研究部の一部から”ネットワーク部”に昇格し、「春/夏/秋」の会議が設定されることとなりました。『ネットワーク』という、「インターネットなどを活用したデジタルな取り組み、バーチャルな活動が中心な

のではないかと、初期の頃は思われていました。確かに長年北造ネットワーク部長を務めてきた小林知広先生は、北海道造形教育連盟のホームページを立ち上げ、また「メーリングリスト」といったネット上での情報交換の場を整備してきたりと、時代の要請にあった形をつくりあげることに貢献いたしました。しかし、それはネット上ですべて「完結」させるためではなく、ここを入り口として造形教育連盟の活動を広げようという意図がありました。

この『ネットワーク』という部署は全国のほかの研究団体には存在しません。北海道という特殊な環境が作り出したものです。ご存知のように北海道は広大です。他の都府県とくらべて、広範囲な地域、それぞれの地区の歴史や地域性をみると、一つの地区としてくくるのは困難です。『北海道』として、全国に向けて研究活動を発信するには、やはり自分たちの足下をしっかりさせることが必要です。『ネットワーク部』はこうした考えのもとに活動がすすみました。

2 ネットワーク部門の活動の目的

各地区サークルの取り組みは独特です。それぞれの地区の歴史的な背景や環境により、他地区がうらやむような活動があります。ネットワーク会議で活動が紹介され、「うちでもやりたい。どのように準備しているのか?」「うちの地区でもやってみたい」「うちの地区の催しに参加して、実際に体験してみてもは?」というように発展していくこともありました。それ以前には考えられなかったことです。美術館や他施設との連携、校種を超えた連携(幼小, 小中, 中高など)、作品展や美術部関係の取り組みの情報もありました。

また、地域のかかえる問題点なども紹介され、同じ問題をかかえる地区同士の取り組みやアドバイスなどもありました。市町村合併による学校の統廃合, それによる教員の減少。免許外の先生方への支援。孤立する図工・美



地区紹介パネル

術科教師同士の研修や情報共有の難しさ。これらの話を共有することで、教科教育の今後に危機感を共有することができたのも大きな成果だといえます。情報の共有は、北海道造形教育連盟としてのまとまりを強くしていくとともに、地区活動についてもひろがりをもたせることになったと感じています。『Team Hokkaido』が掛け声だけではなく、かたちとして意識できたのではないのでしょうか。

3 ネットワーク部門の活動

現在、ネットワーク部門は年二回（春・冬）の会議での情報交流と、全道造形教育研究大会での地区サークル活動の紹介（パネル展示）が主なものとなっています。昨年度、北海道造形教育連盟事務局を中心とした組織改編が行われ、『ネットワーク部』から『研究部の一部門』となりました。これまでもネットワーク会議の中で、地区サークルごとの交流とともに「北海道としての研究活動にもっとつながりをつくることができないうだろうか」といった話し合いがされたことがありましたが、あくまでも情報交換の場であったので、直接研究活動に関わるような取り組みはできませんでした。研究部の中に研究・研修・ネットワークがひとつにまとめられたことで、それぞれの専門的な活動が有機的に結合した取り組みすることができないかと模索しています。そのひとつが研究部から紹介されている『北海道の美術教育を支援する活動』です。今後、この取り組みを充実させていくことはもちろん、ほかの取り組みができないか、ネットワーク会議で交流された情報をもとに検討を進めていきたいと考えています。



春のネットワーク会議の様子。毎年、地区委員総会に先立って開催されています。多くの地区から参加していただき、地区研究活動の報告が行われます。



冬のネットワーク会議は北海道教育美術展審査会にあわせて開催しています。審査会 1 日目の終わりごろの短い時間ですが、活動中間報告のような感じでざっくばらんに交流しています。

4 最後に・・・

毎年、各地区で行われる「全道造形研究大会」。多くの先生方が大会の準備をし、授業をしています。しかし、その時だけのつながりだけではもったいないと感じることもあります。「その後あの授業はどうなったのだろうか？」「あの子たちは、次にどんな取り組みをしたのだろうか？」気になることも出てきます。「もっとこの取り組みについて知りたい。」・・・つながりをつくることで、つながりを継続していくことで、より自分の授業づくりが、地域の研究活動が広がりを見せていくこともあるのではないのでしょうか。そんな「きっかけ」をネットワークの活動が担っていけるようにと考えています。また、北海道以外とのつながりも広がっていけるように、情報を発信できればと取り組んでいます。

全道造形教育
ネットワーク

平成26年度 活動報告

札幌市造形教育連盟

「好き」が輝き、響き合う造形活動

○札幌造形教育連盟 20周年記念 授業 講演 座談会



Team Hokkaido



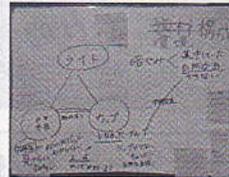
20周年記念授業

光がうつる場所～ヒカリバ

平成26年12月5日

授業者 三浦真奈美 札幌市立稲積小学校

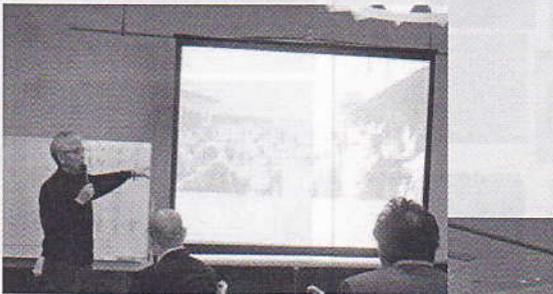
積み重ねた真っ白の段ボールとプラカップというシンプルな材料を、積み、並べ、合わせることで、光の変容を楽しむ活動でした。光の美しさを引き出す、子どもたちの夢中な表情があふれました。



30周年記念講演会

平成26年12月6日

帝京大学の辻政博先生を講師にお招きし、「図工という名の贈り物」というテーマでご講演いただきました。後半は「教師が子どもに与えたもの」「教師が子どもからもらったもの」という課題でグループワークを設定していただきました。



札幌造 20周年記念座談会

平成26年12月6日

札幌の歴代会長を務められた、伊藤善彬先生、塚野昭臣先生、土井善範先生の3名の先生方にご登壇いただきました。今の札幌に至るまでの、出来事思い出を中心に人とのつながりの大切さを伝えて下さりました。

平成26年度 活動報告

石狩造形教育連盟

子どもの表現意欲を高める授業のために
～「おもしろそう」「おもしろい」「おもしろかった」～



石狩管内教育研究会
図工美術部会



石教研二次研究協議会



北広島市立大曲小学校

北広島市立西の里小学校

北広島市立西の里中学校

北広島市が中心
サークル

- 3つの学校で授業公開
- 西の里中で全体会、分科会、実践アトラクション、作品交流会などを行いました。

管内の教師の研修資料と為て、研修センターが毎年発行しています。

石狩の作品集 No.19

子どもの「学び」をみつめる

石狩の作品集



2015.3 石狩管内児童生徒の図工美術作品集
石狩教育研修センター

第19集



平成26年度 活動報告

空知美術教育研究会



研究主題「おも う さぐる つなげる

～基調～持ち寄り、語ることから始めよう」



第51回

全空知子供の作品を語る会
深川北新小大会

人形劇「ワンチャン劇場」
「出前！図工室」3分野
「題材屋台」3題材

ゴザにクラス全員の子どもの
作品を中心になっての「子ど
もの作品を語る会」



冬の実技講座 12月26日

「あかりの形」

石狩：川名義美先生

「木のカトラリー作り」

留萌：西村徳清先生



8月10日11日（毎年固定）
熱く美術教育を語る会

～ 深川市

アートホール東洲館

実技講座、夏までの実践の
交流、小中合同での「子ども
の作品を語る会」

日付固定、全道・道外から来ら
れる方もあり。コテージ宿泊有

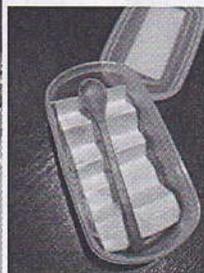


新春ゼミ 1月7日（毎年固定）

実技講座 12月26日

「エソシカ角でストラップ」

札幌：宮崎亨先生



空美（くうび）情報
はHP「jindo 空美」
で検索！

Facebook
「空美のレシピ」も

平成26年度 活動報告

上川造形教育研究会

『わたし』の喜び あふれる造形活動～創造の喜びを実感できる造形活動をめざして～

☆第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会 ☆旭川市教研との連携



第64回全道造形教育研究大会上川旭川大会
2014.7.29(火) 旭川市立永山中学校



「想像のつばさを広げて」
授業者 木村文香
鷹栖町立北野小



「最高に〇〇な顔」
授業者 藤原 賢
富良野市立樹海中



造形まつり
In 全道造形

平成26年度 活動報告

旭川市教育研究会図工美術部

研究テーマ

「『わたし』の喜び」あふれる造形活動



造形

Online

詳細は、
造形 Online
で検索を

造形まつり in 北海道立旭川美術館



第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会(幼4・小5・中5・高1・特支1 計16本)



第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会(造形まつり・造形教育を語る会・レセプション)



平成26年度 活動報告

留萌地方美術教育研究会

研究主題 **生きる喜びを育む造形教育**



実技研修会

平成26年6月25日実施（小平町立小平小学校にて）



絶好の晴天にめぐまれ、小平町の海岸でビーチコーミングをしました。海岸には造形の気持ちがおくおく湧いてくる素材がたくさんありました。この日拾ったものは、すぐには使えないので、この後の実技研では事前に拾って、洗浄、乾燥させたものを使用しました。



小平小学校図工室に移動し、ビーチコーミングで拾った材料を見て楽しみ、ホットボンド（グルーガン）で接着しました。楽しい作品がたくさん完成しました。先生方はお気に入りの作品を持ち帰っていました。これって、かなり大切なことです。



第4回全道造形教育研究大会上川旭川大会造形まつりに参加！！

サンセット王国！！るもいのビーチ出現

たくさんの流木や好みなどをフルシートに広げ、日本海のビーチコーミングが体験できるコーナーを作りました。



平成26年度 活動報告

渡島美術教育研究会

心うるおす造形活動をもとめて

○渡島教育研究集会 ○児童生徒美術作品展 ○実技講習会

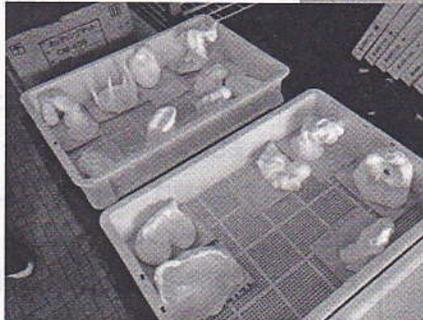
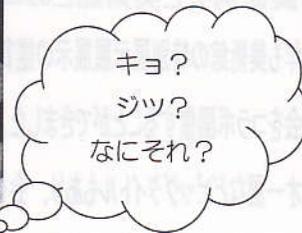


渡島教育研究集会

「手で感情を表現しよう」

授業者 七飯町立七飯中学校 水口 司

加工粘土を用いて感情を抽象的な形で彫刻にするという授業です。「虚の空間」と「実の空間」を組み合わせて表現するという、少し難しい課題でしたが、生徒の皆さんは粘土と格闘しながら、意欲的に制作していました。



渡島児童生徒美術作品展

管内の児童・生徒の作品を展示交流することで、子どもたちの意欲高揚と、指導者の指導力向上を図っています。今年度の出品点数は、幼稚園・小学校・中学校合わせて約700点となりました。



美術鑑賞会

道立函館美術館にて、学芸員さんの解説を受けて「ジョルジュ・ルオー展」の鑑賞を行いました。絵の具の厚みに圧倒されました。



実技講習会

北海道教育大学函館校の橋本先生を講師に招いて、クレヨンとパスを使った指導法を学びました。和気あいあいとした雰囲気の中で、みな童心にかかって取り組みました。

平成26年度 活動報告

函館市美術教育研究会

夢・つくる・人 ~未来はぐむ造形教育~



■ 渡島美研と函館美研合同研修会

27年度の全道大会に向け、渡島・函館の合同役員会議を開きました。全道大会で、渡島の学校からも授業者や提言者を選出してもらうことになり、大会に向けて、力強いパートナーができました。

■ 美研例会と美術館とのコラボ

今年も美術館の特別展示展覧会の鑑賞と美研例会をコラボ開催することができました。ルオー展などビッグタイトルもあり、会員以外の先生でも足を運ぶ機会にもなりました。

■ 児童生徒美術展の実施

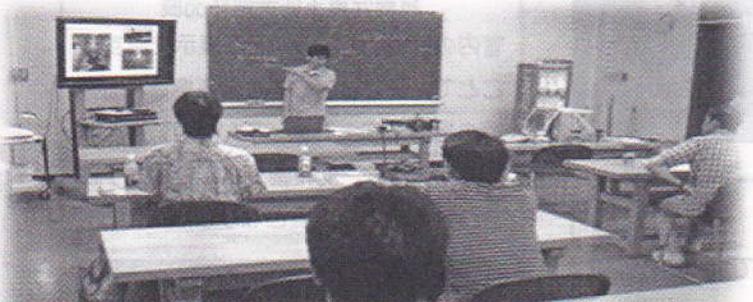
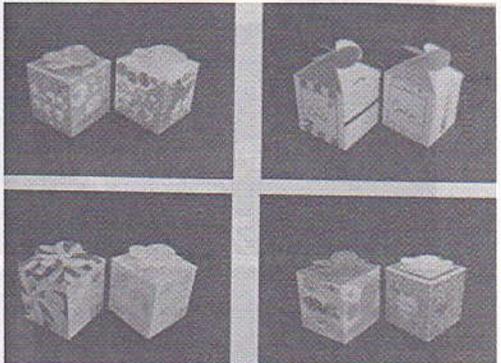
函館市の小中学生を対象にした写生展を11月下旬に市内のデパートを借りて実施しました。そして、2月に児童生徒作品展を芸術ホールを借りて実施しました。どちらもたくさんの来場者があり、2月の児童生徒美術展には、2日で千人を超える来場者数を記録しました。

■ 美研公開授業の実施！！

港中学校の濱地先生が快く授業公開してくれました。

- ◎ 期 日：10月17日（金）
5時間目
- ◎ 函館市立港学校 2年
- ◎ 題材名：パッケージデザイン
- ◎ 指導者：濱地文恵

港中学校・濱地先生が2年生を対象に授業を公開してくれました。題材名はパッケージデザインです。本時は、各班で出来上がってきたパッケージデザインの原案を交流し、アドバイスをもとに再案していくものです。子ども達が、よりよい作品を目指し、熱心に話し合っている姿が印象的でした。この授業は、全道大会で提言の題材にもなっています。お楽しみに。



教育大函館校で3回の学習会を開催！！

8月、6月、2月の3回に渡り、教育大学函館校・橋本忠和先生による学習会（実技研修会）が行われました。休み中や平日の夜にもかかわらず、多くの先生方が集まりました。（ちなみに3回目の）学習会の内容は、

- ①調味料を絵の具にして絵を描く！…これは調味料が絵の具になる意外さと、スパイス系において五感が刺激されることが、子どもの創造性の発達を促すこととなります。
- ②水彩絵の具がガラス絵の具に変身！…水彩絵の具に「洗剤」をちょっとまぜるだけで、なんとガラスやTPシートにしっかりぬれる絵の具になります。簡単にスタンドグラス調の作品制作に使えます！



平成26年度 活動報告

十勝造形サークル

○ 研究サークル合同研究会 ○ 十勝子ども大会

Team Hokkaido

第43回十勝管内教育研究サークル合同研究会

会期 平成26年11月11日(火)

場所 池田町立池田小学校

雪舟になろう!～水墨画の実践～

スポンジや筆、濃淡のある墨など、描きたい内容に合わせて、
道具や方法を選び、発見と学びがあふれる楽しい授業でした。
授業後の討議では実践内容などの交流もしました。



第56回十勝子ども大会

会期 平成26年11月7日(金)～9日(日)

場所 幕別町百年記念ホール

十勝管内町村の小・中学校から多数の作品を持ちより作品展を行いました。

十勝子ども大会は合唱、演劇、書道など文化系の貴重な発表の場となっています。

平成26年度 活動報告

帯広市教育研究会 図工美術部会

豊かな心をはぐくむ造形教育

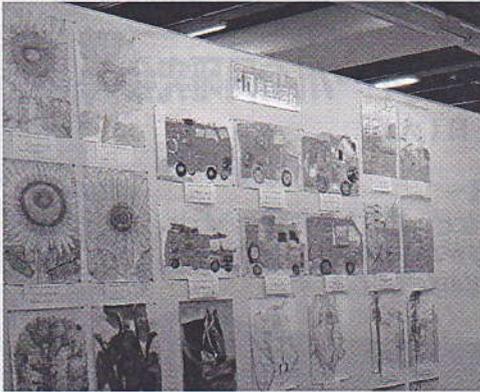


帯広市小中学校 造形展

会場：帯広市民ギャラリー

会期：2014年11月20日(木)

～11月25日(火)



帯広市全小中学校、特別支援学校が参加する作品展です。毎年2000点を超える作品が展示されています。



授業研究「陶芸～土器を作ろう」(6年)

授業者：帯広市立明和小学校 橋本 英子教諭

日時：2014年11月5日(水) 会場：明和小学校 図工室



準備から後片付けまで、しっかりと指導が行き届いた授業と子どもたちの溢れ出す発想に感動しました。



年3回の部会で作品を持ち寄り、交流会を開いています。指導上の工夫や苦労を共有する有意義な時間です。



作品交流研修及び部会

(6月・10月・2月に実施)



平成26年度 活動報告

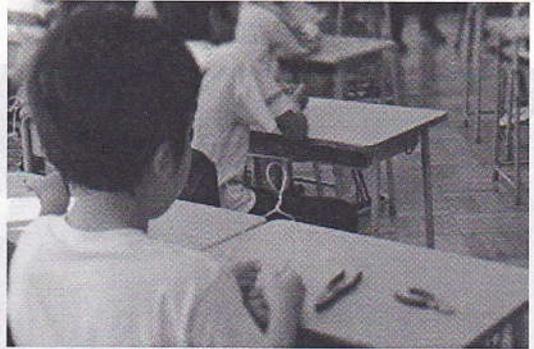
オホーツク造形教育連盟

個・創・喜・感

～ひとりひとりが創造的な喜びを実感するために～



Team Hokkaido

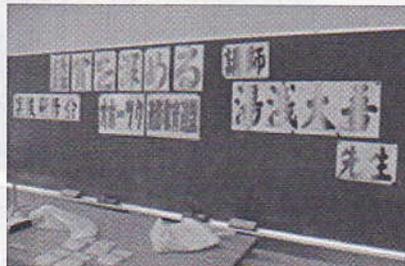


研究大会 8月29日
遠軽町立遠軽小学校 5年生
ぐるぐるくねくね

「ワイヤーマンで遊ぼう！」

授業者：赤岩 穂清 教諭

「ワイヤーマンサーカス団アクロバット公演」と題して、大きな写真が背景になった壁面に、作品を展示する活動でした。サーカスの映像を見てイメージを膨らませた子どもたちは、自分たちの作った針金人形を使って、自由に形を変えら特徴を生かし、人形のポーズ・作品の展示の仕方を工夫していました。



実技研修 11月28日

「鑑賞を深める」

講師：湯浅 大吾 教諭

(札幌市立拓北小学校)

会場：北見市立西小学校

北海道造詣教育連盟より講師を派遣していただき、アートカードを使った鑑賞の授業の実践例を丁寧に説明していただきました。

参加者からは、「一つの作品の味わいがより深くなりました。」「見れば見るほど、見つめれば見つめるほど、作品の味わいがより豊かになることを体感しました。」等の感想が寄せられました。



全道造形教育研究大会 上川・旭川大会

造形まつり

「世界で1つ！手作りMY絵本」

「製本体験」では、短時間でできるように半完成品も用意していましたが、多くの方が一から自分の手で作り上げる方を選んでいました。「絵本作り」では、メンバー手作りの消しゴムはんこや、様々な画材を使ってMY絵本を製作してもらいました。また、はじめからページに丸い穴をあけた仕掛け本も用意して、参加者のみなさんに色々選んでもらえるようにしました。



根室造形連盟

研究主題 一人ひとりの持ち味を生かした造形教育
～造形教育の輪を広げて～



根室管内 教育フェスティバルにて
「筆跡からの発想」講座開催



参加者のほとんどが小学校の先生だったことから、講習会の「筆あと」が小学校の図画工作で展開するには？という観点から具体例を挙げて、提案してみました。実体験することで教えることに良い変化がでるといいなと思います。

限られた時間でどう制作を支援、指導するか？

例) 具体的な表現手法を提示する、視覚化する。

例) 作り方を画像で提示する

視覚化することで説明時間の効率を上げる



児童
・生徒作品



～生活に身近な資源を題材に生かして～
生徒作品の紹介

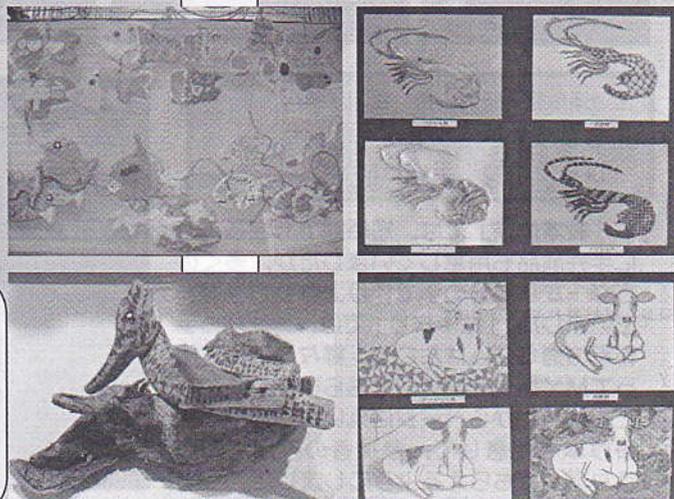
技法の見本



端末機器を利用す



技術面、思考面の未熟さが目立つ傾向にある。どの題材で何を育てるか？など部員で集まり教材の検討して意見交流している。



平成26年度 活動報告

室蘭市造形教育連盟

研究主題：表現する喜びを実感し、進んで活動する子どもの育成

2014(平成26)年度 教科別授業研究集会 11月 公開授業



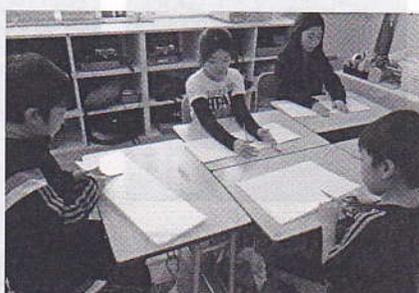
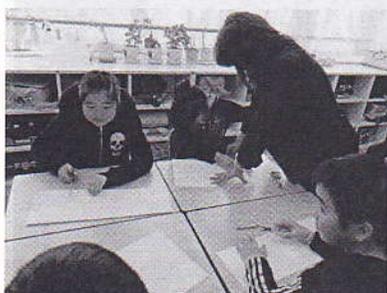
室蘭市教育研究会の造形部の行事として行われたものです。4月から題材の選定や授業内容の検討を部長・副部長・研究主任と授業者の4人で行いました。

2014年11月5日(水)5校時

地球岬小学校4年1組

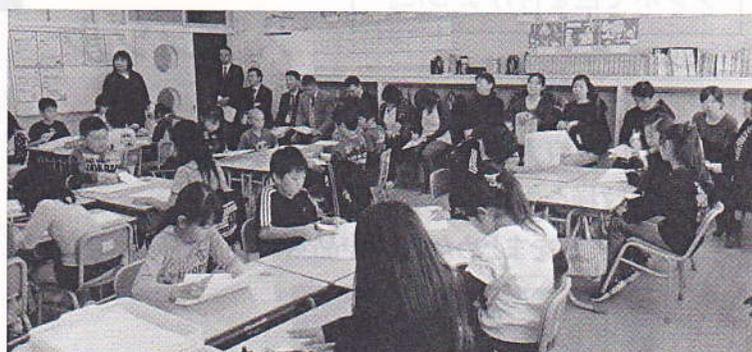
指導者：教諭 小林 敦子

題材名「ゆめのれいぞう庫」



この日は造形部員全員11名が集まり、小林先生の授業を見せていただきました。題材の1時間目の授業であり、子どもたちは意欲的に興味を持って取り組んでいました。

縦に折った画用紙に横に切れ目を入れ、開いた窓に絵を描きこみます。



授業の感想では「クレヨン、ペンなど用意された道具の中から適切なものを選んでいた。普段からこういう活動に慣れていると感じた。」「静かになってから指示することができていい。」「昼からの授業、休憩時にたっぷり遊んだあとの授業。子どもも先生も大変だったと思います。」「楽しそうに作品作りに取り組む

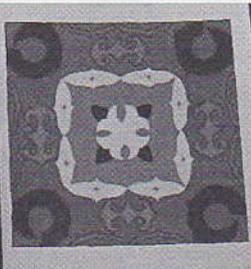
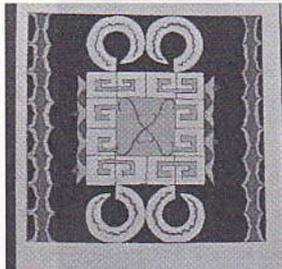
子ども、発想が広がらずなかなか取り組めなかった子どももいました。」などの意見が寄せられました。

この後に授業反省、実技講座として全道造形連盟から講師を招き「鑑賞」の授業について研修しました。内容の深い半日であったと思います。

平成26年度 活動報告

苫小牧市造形部会

生き生きと表現し クラス全員が創り出す喜びを味わう 授業・教材作り
～ 小中がつながる 造形活動 ～



小・中学校合同で、制作した作品の交流、作り方の説明会、卒業式や入学式で使える飾りの実践発表を行いました。

作品交流会

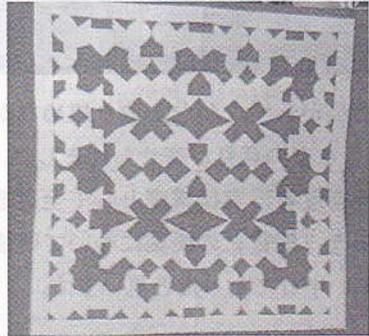


ステンシル講座で自分の名前をプレートに。
カッターで切り抜き、台所用スポンジで作った簡易タンポで色を付けました。



実技講習 ステンシル

この他、教育大佐藤先生のご指導による壁飾り製作実技、
アイヌ紋様を主とした模様作り、
各校の実践をまとめた版画作品集制作を行いました。



北海道造形教育連盟規約
大会開催地と研究主題
北海道造形教育連盟名簿
北海道造形教育連盟地区委員
函館・渡島大会役員一覧

第 65 回 全道造形教育研究大会
函館・渡島大会要項

発 行 者 大会実行委員長 土谷 敬
大会事務局 函館市立椴法華小学校内
木村 伸仁

発行年月日 2015 年 7 月 29 日
印 刷 所 (有) 三 和 印 刷
函館市海岸町 8 番 11 号
電 話 (0138) 45-0845



「夢・つくる・人 ~ 未来はぐくむ造形教育」